

令和4年度  
科学技術分野の文部科学大臣表彰  
推薦事務要領

令和3年5月  
文部科学省研究振興局

## 目 次

1. 科学技術分野の文部科学大臣表彰	1
2. 科学技術分野の文部科学大臣表彰各賞の概要	4
(1) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞	4
(2) 文部科学大臣表彰科学技術賞	5
申請書類様式	14~46
○ 候補調査書「開発・研究・技術」部門（様式科技 1）	14
○ 候補調査書「科学技術振興」部門（様式科技 2）	22
○ 候補調査書「理解増進」部門（様式科技 3）	33
○ 候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式科技 4）	38
○ 候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技 5）	39
○ 候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技 6）	40
○ 候補調査書付属資料「講演一覧」（様式科技 7）	41
○ 候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技 8）	42
○ 履歴書（様式科技 9）	43
○ 候補者推薦書（様式科技 10）	44
○ 候補者一覧表（様式科技 11）	45
○ 業績概要一覧表（様式科技 12）	46
(3) 文部科学大臣表彰若手科学者賞	47
申請書類様式	51~65
○ 候補調査書（様式若手 1）	51
○ 候補調査書「主要業績」（様式若手 2）	53
○ 候補調査書「成果一覧」（様式若手 3）	56
○ 履歴書（様式若手 4）	60
○ 候補者推薦書（様式若手 5）	62
○ 候補者一覧表（様式若手 6）	63
○ 業績概要一覧表（様式若手 7）	64
○ 若手科学者賞推薦状況男女構成確認表（様式若手 8）	65
申請書類記載要領	66
申請分野分類表（別表）	72
(4) 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞	74
申請書類様式	78~81
○ 候補調査書（様式創工 1）	78
申請書類記載要領	80
○ 候補者一覧表（様式創工 2）	81
(5) 文部科学大臣表彰研究支援賞	82
申請書類様式	86~100
○ 候補調査書（様式支援 1）	86
○ 候補調査書「主要業績」（様式支援 2）	89
○ 候補調査書付属資料「成果一覧」（様式支援 3）	92
○ 履歴書（様式支援 4）	97
○ 候補者一覧表（様式支援 5）	99
○ 業績概要一覧表（様式支援 6）	100
申請書類記載要領	101
3. 科学技術分野の文部科学大臣表彰の事務の流れ	107

## 1. 科学技術分野の文部科学大臣表彰

### 1. 目的

この表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする。

### 2. 表彰の種類及び対象について

科学技術分野の文部科学大臣表彰の種類及び表彰対象は、「科学技術分野の文部科学大臣表彰規程（平成16年6月8日文部科学大臣決定）」（以下、「表彰規程」という。）に定められた要件に該当するものとする。（3頁参照）

なお、文部科学大臣表彰科学技術特別賞、科学技術賞研究部門及び若手科学者賞においては、海外を拠点に研究活動等を行っている日本人研究者も含む。ただし、日本国籍を有するものに限る。

### 3. 候補者の留意点

- (1) 表彰対象の分野については、自然科学の他、人文・社会科学の分野も対象とし、将来にわたり、何らかの形で経済社会や国民生活の向上等への貢献が想定される研究等であること。
- (2) 文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞、創意工夫功労者賞及び研究支援賞については、同一の業績により、すでに国家栄典（叙勲、褒章）及び文部科学大臣表彰科学技術賞（科学技術功労者等の文部科学大臣賞又は科学技術庁長官賞を含む）を受けているものがある場合は、表彰対象としない。
- (3) 対象となる業績は1件のみとすること。
- (4) 文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門を除く。）の対象となるグループとは、1グループ5名以内（個人）とする。
- (5) 科学技術賞研究部門の対象となるグループとは、1グループ3名以内（個人）とし、かつ、本業績に対する各人の貢献度が同程度のものとする。
- (6) 文部科学大臣表彰若手科学者賞は表彰される年度の4月1日現在において40歳未満の研究者とする。また、文部科学大臣表彰若手科学者賞については、過去に若手科学者賞を受賞している者への重複した表彰は行わない。
- (7) 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞の対象となるグループとは、1グループ3名以内（個人）とし、かつ5年以内に当該表彰を受けていないこと。また、表彰される年度の4月1日現在において同一の会社に5年以上継続して勤務していること。
- (8) 文部科学大臣表彰研究支援賞の対象となるグループとは、1グループ5名以内（個人）とする。
- (9) 候補者（所属機関も含む）は、訴訟が係争中、公正取引委員会による取り調べ、不祥事の報道がなされるなどのことの無い大臣表彰を受賞するにふさわしい者であること。

### 4. 候補者の推薦について

- (1) 文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞、創意工夫功労者賞、研究支援賞の推薦については、文部科学省研究振興局長が推薦依頼を行った機関が行うものとする（機関推薦）。
- (2) 海外を拠点に研究活動等を行っている日本国籍を有する者について、文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門又は若手科学者賞に推薦する場合は、機関推薦にかかわらず機関の長（個人として）、部局長又はこれらに準ずる者からの推薦も可能とする（個人推薦）。ただし、3名の推薦書を提出すること。
- (3) 共同開発者、共著者がいる場合、本候補者が今回の表彰に推薦されることに関して事前に了承を得ておくこと。
- (4) 同一人物の重複推薦を避けるため、他機関に所属する者を推薦する場合は、事前に当該機関の了解を得ておくこと。
- (5) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞については、文部科学省に設置された科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会（以下、「審査委員会」という。）において随時、選定するものとし、推薦は受け付けていない。

## 5. 推薦手続き

- (1) 申請書類についての責任は、推薦機関及び推薦者にあるので、推薦に際しては、指定された申請書類を所定の様式に従って責任を持って作成し、提出すること。
- (2) 申請書類等について、本要領の記載事項ならびに所定の様式を満足しない場合又は、不実、虚偽の記載の事実等があった場合は、審査の対象から除外する。

## 6. 審査について

- (1) 審査委員会において審査・選定を行い、その過程については非公開とする。
- (2) 文部科学大臣表彰科学技術賞については、審査委員会の審査・選定の過程で推薦時の部門にかかわらず部門を変更して審査・選定を行うことがあり得る。
- (3) 審査委員会における審査・選定に当たっては、必要な書類等の提出を求める場合がある。

## 7. 被表彰者の決定について

被表彰者は、審査委員会における審議結果を尊重して、文部科学大臣が決定する。

## 8. 表彰の時期について

表彰の時期は、原則として科学技術週間中（4月）に表彰状及び副賞を授与してこれを行う。ただし、文部科学大臣表彰科学技術特別賞については、随時表彰を行う。

## 9. 被表彰者の取り消しについて

被表彰者としてふさわしくない非行行為及び被表彰者に係る提出書類に不実、虚偽の記載の事実等が判明した場合、被表彰の決定を取り消す。

## 科学技術分野の文部科学大臣表彰一覧

表彰の種類	表彰対象等	表彰式等	推薦期限
科学技術特別賞	イ 科学技術に関する研究開発において特に優れた成果を収めた個人又はグループ ロ 科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動を行い、又は顕著な研究業績をあげた個人又はグループ	随時	
科学技術賞			
①開発部門	我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人（30件程度）	科学技術週間中（4月）	令和3年7月21日（水）
②研究部門	我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループ（40件程度）	〃	〃
③科学技術振興部門	研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において、科学技術の振興に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ。（10件程度）	〃	〃
④技術部門	中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人（40件程度）	〃	〃
⑤理解増進部門	青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ（20件程度）	〃	〃
若手科学者賞	萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人（100人程度）	〃	〃
創意工夫功労者賞	優れた創意工夫によって職域における科学技術の進歩又は改良に寄与した個人又はグループ（500人程度）	科学技術週間中（4月）に各推薦機関から伝達	令和3年9月22日（水）
研究支援賞	科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて、高度で専門的な技術的真獻を通じて研究開発の推進に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ（10件程度）	科学技術週間中（4月）	令和3年7月21日（水）

## 2. 科学技術分野の文部科学大臣表彰各賞の概要

### (1) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞

#### 表彰対象

1. 科学技術特別賞は、社会・経済の発展、国民生活の向上等において、特に優れた科学技術上の画期的成果に対し、時宜を失することなく早期に顕彰するとともに、その成果に対する功績が顕著な者を表彰する。
2. 科学技術特別賞は、次の要件の一に該当する成果を対象とする。
  - イ 科学技術に関する研究開発において特に優れた成果を収めた個人又はグループ
  - ロ 科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動を行い、又は顕著な研究業績をあげた個人又はグループ

- \* 1 「科学技術に関する研究開発において特に優れた成果」とは
  - ・ 我が国の科学技術水準を内外に知らしめる世界的にも注目される顕著な成果
  - ・ 科学技術あるいは経済社会の発展・向上に大きく貢献した世界的にも顕著な成果
- \* 2 「科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動」「顕著な研究業績」とは
  - ・ 我が国の科学技術の発展・向上に寄与するとともに、広く国民に周知され、国民の科学技術の必要性に対する意識の向上に貢献した顕著な成果

## (2) 文部科学大臣表彰科学技術賞

### 表彰対象

1. 科学技術賞は、我が国の社会・経済、国民生活の発展向上等における最近の科学技術上の成果を顕彰するとともに、その成果に対する功績が顕著な者を表彰する。
2. 科学技術賞は、以下の各部門の要件に該当する成果を対象とする。
  - ①開発部門  
我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人
  - ②研究部門  
我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループ
  - ③科学技術振興部門  
研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において、科学技術の振興に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ
  - ④技術部門  
中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人
  - ⑤理解増進部門  
青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ

### ①開発部門

現在、実際に利活用され、我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明に対する表彰。

- \* 1 「我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているもの」とは
  - ・実績からみて我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に最近顕著な成果を挙げている研究開発成果であり、かつ、今後も引き続き大きな効果が期待できる画期的な研究開発成果で売上実績（売上が生じない研究開発成果については、利活用の実績と読み替える）が過去3年間あること
- \* 2 「育成」とは
  - ・上記\* 1に相当する研究開発成果について、自らも参画する等の直接的貢献を有するとともに、その技術の完成、実施に対し技術的に適切な指導を行う等の育成（ただし、この場合、特許・論文等において育成の実績が客観的に明らかとなる場合に限る）

### ②研究部門

科学技術分野において顕著な効果を挙げる可能性の高い最近の独創的な研究開発成果に対する表彰。

- \* 1 「我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明」とは
  - ・将来、科学技術あるいは社会・経済の進歩・発展に貢献する可能性の高いことが客観的に評価されている、独創性に優れた最近の画期的な研究開発成果。
  - ・将来、科学技術の発展に貢献する可能性の高いことが客観的に評価されている、独創性に優れた最近の学術研究の成果。

### ③科学技術振興部門

我が国の社会・経済の発展・向上に寄与する、科学技術分野の発展を促す顕著な成果に対する表彰。

\* 「研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野」とは

- ・我が国の社会・経済の発展・向上に寄与した新たな科学技術的発見による最近の業績。
- ・我が国の直面する社会・経済的な課題を解決した最近の業績。
- ・研究の新しい実施形態※を構築し、我が国の社会・経済の発展・向上に寄与した最近の業績  
※例えば、オープンサイエンスや市民参加型のサイエンス（シチズンサイエンス）等の研究の新しい実施形態や、IoT、ロボット、AI、ビッグデータ等の新たな基盤技術を用いて実施したものなど

### ④技術部門

中小企業・地場産業等において、実際に利活用され、科学技術の開発・育成に顕著な功績を挙げた成果に対する表彰。

\* 1 「中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術」とは

- ・地域や業種等の各分野に特化した技術であって、技術開発成果に係る売上実績が過去3年間あり、地域経済等の発展に貢献した顕著な成果

なお、中小企業の定義は、中小企業基本法第2条に規定する範囲とする。

\* 2 「育成」とは

- ・上記\* 1に相当する技術開発成果について、自らも参画する等の直接的貢献を有するとともに、その技術の完成、実施に対し技術的に適切な指導を行う等の育成（ただし、この場合、特許・論文等において育成の実績が客観的に明らかとなる場合に限る）

### ⑤理解増進部門

科学技術に対する理解の増進、普及啓発等に関して顕著な業績を挙げた成果に対する表彰。

\* 1 「青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与」とは

- ・科学技術に対する理解の増進もしくは普及啓発等を目的とする団体または施設等の活動を通じて、広く科学技術に対する国民の関心を高めた活動等
- ・科学技術に対する理解の増進もしくは普及啓発等を目的とする団体または施設等の設立に尽力し、あるいは活動基盤の強化に貢献した等の活動等
- ・上記の団体や施設等の活動としてではないが、科学技術に対する理解を増進するための環境の醸成に貢献した活動等
- ・上記の団体や施設等の活動としてではないが、文筆、出版、映像、講演、科学教育活動等の活動を通じて、広く国民に対する科学技術の普及啓発、理解増進に貢献した活動等

\* 2 「地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与」とは

- ・講演や科学教育活動等を通じて、地域に特化した形での科学技術の普及啓発、理解増進活動を行うことによって、科学技術の振興に貢献した活動等

\* 3 上記\* 1、\* 2のいずれかの活動等については、多年（3年以上）にわたり現在まで継続して活動を行った実績があること。

推薦機関において、上記部門①～⑤のいずれに該当するか判断のつかない科学技術の振興について顕著な業績を挙げた者、あるいはグループがあった場合には、「その他」部門の候補として推薦してもよい。その際には、文部科学省に設置された有識者からなる審査委員会において適宜判断のうえ、審査・選考を行うものとする。



## ○文部科学大臣表彰科学技術賞の申請に必要な書類等

文部科学大臣表彰科学技術賞各部門への申請に際しては、以下の書類を所定の様式に従い作成すること。ただし、「その他」部門に係る申請書類等の作成にあたっては、開発部門と同様の様式を用いること。

書類は紙媒体で提出し、候補者一覧表（様式科技11）、業績概要一覧表（様式科技12）は振興企画課奨励室まで電子媒体で提出すること。なお、事務局による記載事項等の確認ののち、必要に応じて追加提出を求めることがあり得る。（提出部数一覧表（13ページ）を参照し、漏れないように提出すること。）

### （1）候補調査書

〈対応する様式〉

- ①開発部門、②研究部門、④技術部門 …………… 様式科技1（14～21ページ）
- ③科学技術振興部門 …………… 様式科技2（22～32ページ）
- ⑤理解増進部門 …………… 様式科技3（33～37ページ）

（様式科技1～3：2部。両面印刷不可）

### （2）候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」

様式科技4（38ページ）に従い作成すること。

本資料には、登録されている特許・実用新案のみ記載することとし出願中のものは記載しないこと。なお、記載したすべての特許・実用新案の写を添付すること。

※①開発部門、②研究部門、③科学技術振興部門及び④技術部門の場合に提出すること。

（様式科技4：2部。両面印刷不可）

（特許・実用新案の写：1部。両面印刷可）

### （3）候補調査書付属資料「研究論文一覧」

様式科技5（39ページ）に従い作成すること。

本資料には、発表済み（オンラインを含む）・未発表の場合はアクセプト済みのいずれも査読付き論文を記載可能とし、記載した全ての論文の写を添付すること。

（様式科技5：2部。両面印刷不可）

（論文の写：1部。両面印刷可）

### （4）候補調査書付属資料「著書一覧」

様式科技6（40ページ）に従い作成すること。

本資料には、記載した全ての著書の写を添付すること。

（様式科技6：2部。両面印刷不可）

（著書の写：1部。両面印刷不可）

### （5）候補調査書付属資料「講演一覧」

様式科技7（41ページ）に従い作成すること。

※③科学技術振興部門及び⑤理解増進部門の場合に提出すること。

（様式科技7：2部。両面印刷不可）

### （6）候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」

様式科技8（42ページ）に従い作成すること。

本資料に記載した新聞記事等のうち、表彰対象の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写（5件以内）を添付すること。

（様式科技8：2部。両面印刷不可）

（新聞記事等の写：1部。両面印刷不可）

#### (7) 履歴書

様式科技9 (43ページ) に従い作成すること。  
(様式科技9 : 2部。両面印刷不可)

#### (8) 候補者推薦書

様式科技10 (44ページ) に従い作成すること。(研究部門に申請する個人推薦の場合のみ提出)

- ・本推薦書は候補者の研究能力に対する客観的評価に関わるものである。
- ・本推薦書は、3名の者からの提出を要する。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。
- ・英語で推薦書を記載する場合には別途和訳を提出すること。
- ・本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者に口外しないこと。  
(様式科技10 : 3名分それぞれ正副各1部。両面印刷不可)

#### (9) 戸籍抄本 (1部)

- ・戸籍抄本は原則令和3年4月1日以降に発行されたものを提出すること。
- ・ただし、外国籍の場合は、戸籍抄本に代えて、個人番号(マイナンバー)の記載のない住民票を提出すること。

#### (10) 候補者一覧表、業績概要一覧表

様式科技11 (45ページ)、様式科技12 (46ページ) に従い作成すること。

様式は振興企画課奨励室まで電子媒体で提出すること。(提出先:kagihyosyo@mext.go.jp)

- ・電子媒体をメール送信する際は、それぞれ次のように設定すること。

(例)

電子ファイル名

候補者一覧表…【推薦機関名】科技候補者一覧表

業績概要一覧表…【推薦機関名】部門名\_筆頭候補者氏名\_科技業績概要一覧表

※業績概要一覧表(様式科技12)は、1つの業績につき1ファイル作成すること。

※部門名には、申請する部門の種類(開発・研究・振興・技術・理解)を入れること。

メール送信時の件名

【提出: 推薦機関名】科技候補者一覧表・業績概要一覧表

## ○文部科学大臣表彰科学技術賞の申請書類提出要領

文部科学大臣表彰科学技術賞各部門への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書、候補調査書付属資料、特許・論文の写し等の各種書類を、以下の要領に従い提出すること。

なお、審査過程で必要に応じて追加提出を求められることがあり得る。

### (1) 資料の順番

#### (ア) 開発部門、研究部門、技術部門へ申請する場合

##### (A) 管理用書類（1部）（全て左肩クリップ留め）

各種書類を1部ずつ①～⑧の順番に並べ、1セットとすること。

- ①候補調査書（様式科技1）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式科技4）
- ③候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技5）
- ④候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技6）
- ⑤候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技8）
- ⑥履歴書（様式科技9）
- ⑦候補者推薦書（様式科技10）（3名分（正））
  - ・研究部門に申請する個人推薦の候補者の場合のみ提出すること。
- ⑧戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）
  - ※B5サイズの戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。
  - ※候補が複数名の場合、履歴書及び戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ留めとすること。
- ⑨その他資料
  - ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）（大学等の公的機関の場合には不要）
  - ・受賞関係資料（表彰歴の欄に記載した内容が客観的に確認できる資料）

##### (B) 審査用書類（1部）

##### （③特許・実用新案の写、⑤論文の写、⑦著書の写以外は、全て左肩クリップ留め）

各種書類を1部ずつ①～⑩の順番に並べ、1セットとすること。

- ①候補調査書（様式科技1）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式科技4）
- ③「特許・実用新案一覧」に記載の特許・実用新案の写  
（特許もしくは実用新案1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ④候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技5）
- ⑤「研究論文一覧」に記載の論文の写  
（論文1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑥候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技6）
- ⑦「著書一覧」に記載の著書の写  
（表紙及びまえがきの写をそれぞれ1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑧候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技8）
- ⑨「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写（A4版の大きさに統一）  
（新聞記事等1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑩履歴書（様式科技9）
- ⑪候補者推薦書（様式科技10）（3名分（副））
  - ・研究部門に申請する個人推薦の候補者の場合のみ提出すること。

## (イ) 科学技術振興部門へ申請する場合

### (A) 管理用書類（１部）（全て左肩クリップ留め）

各種書類を１部ずつ①～⑧の順番に並べ、１セットとすること。

- ①候補調査書（様式科技２）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式科技４）
- ③候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技５）
- ④候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技６）
- ⑤候補調査書付属資料「講演一覧」（様式科技７）
- ⑥候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技８）
- ⑦履歴書（様式科技９）
- ⑧戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）
  - ※Ｂ５サイズの戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）の場合には、Ａ４用紙にのり付けすること。また、Ｂ４サイズの場合には、適当な位置で折り、Ａ４用紙に左横のり付けすること。
  - ※候補が複数名の場合、履歴書及び戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ留めとすること。
- ⑨その他資料
  - ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）（大学等の公的機関の場合には不要）
  - ・候補案件の成果に関する実績について、申請業績が実利用されていること、あるいは実利用された場合の予測等を示す客観的データ
  - ・受賞関係資料（表彰歴の欄に記載した内容が客観的に確認できる資料）

### (B) 審査用書類（１部）

（③特許・実用新案の写、⑤論文の写、⑦著書の写以外は、全て左肩クリップ留め）

各種書類を１部ずつ①～⑩の順番に並べ、１セットとすること。

- ①候補調査書（様式科技２）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式科技４）
- ③「特許・実用新案一覧」に記載の特許・実用新案の写  
（特許もしくは実用新案１件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ④候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技５）
- ⑤「研究論文一覧」に記載の論文の写  
（論文１件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑥候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技６）
- ⑦「著書一覧」に記載の著書の写  
（表紙及びまえがきの写をそれぞれ１件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑧候補調査書付属資料「講演一覧」（様式科技７）
- ⑨候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技８）
- ⑩「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写（Ａ４版の大きさに統一）  
（新聞記事等１件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑪履歴書（様式科技９）

## (ウ) 理解増進部門へ申請する場合

### (A) 管理用書類（1部）（全て左肩クリップ留め）

各種書類を1部ずつ①～⑦の順番に並べ、1セットとすること。

- ①候補調査書（様式科技3）
- ②候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技5）
- ③候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技6）
- ④候補調査書付属資料「講演一覧」（様式科技7）
- ⑤候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技8）
- ⑥履歴書（様式科技9）
- ⑦戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）  
※B5サイズの戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。  
※候補が複数名の場合、履歴書及び戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ留めとすること。
- ⑧その他資料
  - ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）（大学等の公的機関の場合には不要）
  - ・受賞関係資料（表彰歴の欄に記載した内容が客観的に確認できる資料）

### (B) 審査用書類（1部）（③論文の写、⑤著書の写以外は、全て左肩クリップ留め）

各種書類を1部ずつ①～⑦の順番に並べ、1セットとすること。

- ①候補調査書（様式科技3）
- ②候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式科技5）
- ③「研究論文一覧」に記載の論文の写  
（論文1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ④候補調査書付属資料「著書一覧」（様式科技6）
- ⑤「著書一覧」に記載の著書の写  
（表紙及びまえがきの写をそれぞれ1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑥候補調査書付属資料「講演一覧」（様式科技7）
- ⑦候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式科技8）
- ⑧「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写（A4版の大きさに統一）  
（新聞記事等1件ごとに左肩ホチキス留めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ留めすること。）
- ⑨履歴書（様式科技9）

(2) 資料の取りまとめ

- ・上記(1)により作成した資料を、1セットずつ封筒に入れること。
- ・封筒の右肩には、それぞれ内容物が分かるよう、以下を記載すること。
  - ①申請する部門の名称
  - ②候補者氏名(候補が複数の場合には、筆頭者氏名)
  - ③推薦機関名
  - ④管理用資料、審査用資料の別
- 例) 管理用資料の場合 …「管」と記載  
審査用資料の場合 …「審」と記載
- ・資料1セットが、封筒1枚にまとめられない場合には分けて入れること。  
その際には、その旨が分かるよう封筒右肩に記載すること。

例) 審査用資料が封筒1枚にまとめられず、封筒2枚に分かれる場合。

科学技術賞	□□部門
候補者氏名	○○○○
推薦機関名	△△△△
「審」	1 / 2

- ・推薦機関ですべて確認の上、推薦依頼の別添として送付した「申請書類チェックリスト」を入れること(推薦機関で1部)。

(3) その他

- ・候補調査書及び候補調査書付属資料に含まれる個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき管理し、本表彰審査のために利用します。
- ・受賞者の氏名・年齢・顔写真、所属・役職、業績名、業績概要、推薦機関名等は公表されますので予め承知願います。



◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、7枚程度にまとめること。（手書き・両面印刷不可）

令和4年度 科学技術賞 {  
開発  
研究  
技術 部門 候補調査書 {  
機関  
個人

- ・表題は、部門を選択し、研究部門については機関推薦か個人推薦かを記載する。

1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、開発部門および技術部門の場合には「開発」もしくは「開発育成」、研究部門の場合には「研究」とすること。
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、業績名には商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・、。 ）を使用しないこと。また、字間は空けないこと。

2. 受賞候補者

(筆頭者) <small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> ○○○○ (○○歳) (○○○○年○○月○○日生) (男)
所属・役職	(株) ○○工業 ○○開発部長 (現職のみ記載すること)
候補者の現住所	〒 — ○○県○○市○○町 1-1
<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> ○○○○ (○○歳) (○○○○年○○月○○日生) (男)
所属・役職	○○大学 ○○学部 教授 (現職のみ記載すること)
候補者の現住所	〒 — ○○県○○市○○町 1-2
<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> ○○○○ (○○歳) (○○○○年○○月○○日生) (女)
所属・役職	(独) ○○機構 主任研究員 (現職のみ記載すること)
候補者の現住所	〒 — ○○県○○市○○町 1-3

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後に他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。また、研究部門については、貢献度が同等であるものに限るため（筆頭者）の文字を削除する。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、5名（研究部門については3名）以内とする。
- ・候補者は、全員が本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名には、必ずふりがなを付すこと。
- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も使用可とする。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・生年月日は、西暦で記入すること。
- ・株式会社は（株）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、独立行政法人は（独）、国立研究開発法人（国研）とし、役職は正確に記載すること。（様式科技9履歴書の現職の記載も同様とすること。）



## 3. 会社概要（※候補者が民間企業所属の場合のみ記入）

候補者氏名	会社名称	資本金 (百万円)	従業員数 (人)	年間売上げ (百万円)	主要製品名 (売上げ比率)
〇〇〇〇	(株) 〇〇工業				
〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇				

- ・民間企業所属の候補者の場合のみ、当該項目は記載すること。
- ・会社概要は、候補調査書作成時点における内容を記載する。
- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、すべての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）を添付すること。

## 4. 表彰歴 【候補案件の成果に関する受賞歴】

表彰年	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
〇〇〇〇年 (受賞者氏名：〇〇〇〇)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
〇〇〇〇年 (受賞者氏名：〇〇〇〇、 △△△△、□□□□)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(一社) 〇〇学会

- ・候補案件の成果に関する受賞について、全て記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年（西暦）、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、全ての受賞者氏名を記載順通りに記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載した全ての受賞について、記載した内容が客観的に確認できる資料（表彰状の写、表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）を添付すること。

## 5. 候補案件の成果に関する実績（過去3か年度）

製 品 名 ( )				
年 度	2018年度	2019年度	2020年度	市場占有率の算定根拠
生産数量(単位)				同種製品の全国年間生産数量に占める当該技術開発による生産数量の割合
金 額(単位)				
市場占有率(%)				
輸 出 額(単位)				
主な用途・利用方法				
輸 出 先				

- ・前年度までの3か年度の実績を記載する。（開発部門及び技術部門については必須。）
- ・市場占有率は、できる限り公正なデータを使用するとともに、「市場占有率の算出根拠」欄に分子/分母の対象を明確に記載すること。また、分母の客観性について具体的に説明すること。（例えば、「工業会の統計資料」等）
- ・売上げが生じない研究開発成果については、売上以外の数値で活用されている実績を表すこと。そのため、「生産数量」「金額」「輸出額」の欄を適切な項目に変更することを可とする。なお「金額」「輸出額」について該当がない場合は「-」とすること。

## 6. 推薦機関等

機関名		
代表者職名・氏名		
所在地等	〒      ー	
	TEL :	
推薦事務担当者		
所属 <sup>ふりがな</sup> ・氏名		
連絡先	TEL :	FAX :
	E-Mail :	

- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長から推薦依頼を受けた機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・「推薦事務担当者」欄については、今後当室からの事務的な連絡に対応し、確実に連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関及び推薦者にあるものとする。

## 7. 本件内容に関する問合せ先

所属 <sup>ふりがな</sup> ・氏名		
連絡先	TEL :	FAX :
	E-Mail :	

- ・「本件内容に関する問合せ先」欄には、候補者の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む）に対して適切かつ確実に応答のできる者を記載すること。（ただし、候補者本人は不可。）
- ・必ず連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）

## 8-1. 業績の概要

開発時期	: ○○○○年○○月～○○○○年○○月 (計○○年○○月)
実利用化時期	: ○○○○年○○月
<p>(1) 当該分野における開発(研究)の背景</p> <p>本件技術(研究)の必要性等の科学技術的背景を含めて記載。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(2) 候補案件の成果の内容</p> <p>①本件技術(研究)の内容</p> <p>本件技術(研究)の内容が具体的に理解できるように記載。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>②本件技術(研究)の特徴、従来技術との相違等</p> <p>簡潔明瞭に記載。(例: …の構造に～を採用することで、～をなくし…とした。)</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(3) 従来技術の内容</p> <p>①従来技術の内容</p> <p>従来技術の内容が具体的に理解できるように記載。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>②従来技術の問題点</p> <p>簡潔明瞭に記載。(例: …の構造を～部に有しているため、～が生じ、～の問題が生じていた。)</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(4) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果</p> <p>従来技術と比較のうえ、本件技術(研究)による社会的・技術的效果、他の技術分野への貢献、ならびに本件技術(研究)の特徴(優秀性、経済性、作業性等)を記載すること。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>	

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・開発時期(西暦)は、本件業績に要した期間、実利用化時期は、本件業績が利用され製品化等された時期(ただし、研究部門については、利活用が見込まれる時期)を記載する。
- ・開発が継続中の場合、開発時期の終期は「～継続中」と記載し、(計○○年○○月)の欄には本調査書作成日までの年月を記載する。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章は全て箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。
- ・研究部門については、各項目にかっこ書きで示すように「開発」・「技術」を「研究」と読み替えて作成すること。

## 8-2. 候補案件の成果の内容

本調査書8-1(2) 候補案件の成果の内容(①本件技術(研究)の内容、②本件技術(研究)の特徴、従来技術との相違等)について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)
- ・参考図は簡単な図とする。特許公報等の図の転用は原則不可とする。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

## 8-3. 従来技術の内容

本調査書8-1(3)従来技術の内容(①従来技術の内容、②従来技術の問題点)について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)
- ・参考図は簡単な図とする。特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

## 8-4. 同一の業績に対して複数の候補者がある場合、各候補者の寄与度

候補案件において、各候補者がどのような立場、どのような役割を担い、候補案件に寄与したか説明すること。

(必要な場合は、開発・研究・技術推進体制図を記載すること。)

## (1) 氏名

・所属・役職

・・・・の開発（技術）において、・・・・として、・・・・を担当し、・・・・した。  
この成果は・・・・本開発（技術）において、・・・・に貢献した。

## (2) 氏名

・所属・役職

・・・・の開発（技術）において、・・・・として、・・・・を担当し、・・・・した。  
この成果は・・・・本開発（技術）において、・・・・に貢献した。

【研究部門の場合の例】※研究業績に係る各人の分担の記載ではなく、業績に係る貢献度が同等である旨を記載すること

## (1) 氏名

・所属・役職

・・・・の研究において、・・・・に必要な・・・・の成果をあげた。

この成果は、本研究業績である・・・・の・・・・を示すものであり、本研究業績に対する貢献は同等である。

## (2) 氏名

・所属・役職

・・・・の研究において、・・・・に必要な・・・・の成果をあげた。

この成果は、本研究業績である・・・・の・・・・を示すものであり、本研究業績に対する貢献は同等である。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本件業績に対し、研究部門の場合は各候補者が同等の貢献をしていること、開発部門及び技術部門については各候補者を加えなければならない（外すことが出来ない）ことを明確に記載すること。
- ・研究部門については、各項目にかっこ書きで示すように「開発」を「研究」と読み替えて作成すること。
- ・所属・役職は、2. 受賞候補の欄に記載したものと同一ものを記載すること。
- ・候補案件がグループでない場合は、「該当なし」と記載すること。

## 9. 候補案件の成果に関する主要な特許・実用新案・論文（2件以内）

①登録番号・タイトル：特許第〇〇〇〇〇〇号「〇〇〇〇装置」

②出願、登録年：〇〇〇〇年出願、〇〇〇〇年登録

③全発明者氏名（候補者氏名に下線）

④当該特許の概要

- ・
- ・
- ・

①論文名：「〇〇〇〇〇〇の研究」

②掲載誌名・巻（号）・ページ・発表年：〇〇学会誌 vol.〇 p〇～〇、〇〇〇〇年発表

③全執筆者氏名（候補者氏名に下線）

④当該論文の概要

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・候補案件の成果に関する受賞候補者の主要な特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）の登録番号、タイトル、出願年（西暦）、登録年（西暦）、全発明者氏名を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要について箇条書きで記載すること。出願中のものは記載しないこと。
- ・候補案件の成果に関する受賞候補者の推薦時点における主要な論文（発表済み（オンラインを含む）又は未発表の場合はアクセプト済みで、いずれも学協会等の査読付きの論文のみ）の論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、発表年（西暦）、全執筆者氏名を記載するとともに、当該論文の概要について箇条書きで記載すること。但し、発表未定の論文については記載しないこと。
- ・主要な特許・実用新案・論文あわせて2件以内で記載すること。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、6枚程度にまとめること。（手書き・両面印刷不可）

## 令和4年度 科学技術賞 科学技術振興部門 候補調査書

### 1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、「振興」もしくは「貢献」とすること。
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、業績名には商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・、。 ）を使用しないこと。また、字間は空けないこと。

### 2. 受賞候補者

（筆頭者）	
氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 （〇〇歳）（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生） （男）
所属・役職	（株）〇〇工業 〇〇開発部長 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 （〇〇歳）（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生） （男）
所属・役職	〇〇大学 〇〇学部 教授 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-2
氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 （〇〇歳）（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生） （女）
所属・役職	（独）〇〇機構 主任研究員 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-3

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後に他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、5名以内とする。
- ・候補者は、全員が本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名には、必ずふりがなを付すこと。
- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も使用可とする。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・生年月日は、西暦で記入すること。
- ・株式会社は（株）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、独立行政法人は（独）、国立研究開発法人（国研）とし、役職は正確に記載すること。（様式科技9履歴書の現職の記載も同様とすること。）



## 3. 会社概要（※候補者が民間企業所属の場合のみ記入）

候補者氏名	会社名称	資本金 (百万円)	従業員数 (人)	年間売上げ (百万円)	主要製品名 (売上げ比率)
〇〇〇〇	(株) 〇〇工業				
〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇				

- ・民間企業所属の候補者の場合のみ、当該項目は記載すること。
- ・会社概要は、候補調査書作成時点における内容を記載する。
- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、全ての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）を添付すること。

## 4. 表彰歴 【候補案件の成果に関する受賞歴】

表彰年	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
〇〇〇〇年 (受賞者氏名：〇〇〇〇)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
〇〇〇〇年 (受賞者氏名：〇〇〇〇、 △△△△、□□□□)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(一社) 〇〇学会

- ・候補案件の成果に関する受賞について、全て記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年（西暦）、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、全ての受賞者氏名を記載順通りに記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載した全ての受賞について、記載した内容が客観的に確認できる資料（表彰状の写、表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）を添付すること。

## 5. 推薦機関

機関名	
代表者職名・氏名	
所在地等	〒 ー TEL :
推薦事務担当者 所属 <sup>ふりがな</sup> ・氏名 連絡先	TEL : FAX : E-Mail :

- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長から推薦依頼を受けた機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・「推薦事務担当者」欄については、今後当室からの事務的な連絡に対応し、確実に連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関にあるものとする。

## 6. 本件内容に関する問合せ先

所属 <sup>ふりがな</sup> ・氏名	
連絡先	TEL : FAX : E-Mail :

- ・「本件内容に関する問合せ先」欄には、候補者の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む）に対して適切かつ確実に応答のできる者を記載すること。（但し、候補者本人は不可。）
- ・必ず連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）

本項7の記載内容については、候補案件の成果の内容に照らし、以下の3種から1つを選択して記載すること。(それぞれについて様式が異なるので注意すること。)

【a. 新たな科学技術的発見に関する場合】

【b. 社会課題解決の場合】

【c. 新しい実施形態の構築等の場合】

7-1 a. 業績の概要【a. 新たな科学技術的発見に関する場合】

実施時期 : ○○○○年○○月～○○○○年○○月 (計○○年○○月)

(1) 当該分野における背景

本件成果の必要性等の科学技術的背景を含めて記載。

・  
・

(2) 候補案件の成果の内容

①本件成果の内容

本件成果の内容が具体的に理解できるように記載。

・  
・

②本件成果の特徴、従来の成果との相違等

簡潔明瞭に記載。(例: …の構造に～を採用することで、～をなくし…とした。)

・  
・

(3) 従来成果の内容

①従来成果の内容

従来成果の内容が具体的に理解できるように記載。

・  
・

②従来成果の問題点

簡潔明瞭に記載。(例: …の構造を～部に有しているため、～が生じ、～の問題が生じていた。)

・  
・

(4) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来成果と比較のうえ、本件成果による社会的・技術的効果、他の分野への貢献、ならびに本件成果の特徴(優秀性、経済性、作業性等)を記載すること。

・  
・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・実施期間は、発見に至るまでに要した期間(西暦)を記載する。
- ・継続中の場合、実施期間の終期は「～継続中」と記載し、(計○○年○○月)の欄には本調査書作成日までの年月を記載する。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章は全て箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

## 7-2 a. 候補案件の成果の内容【a. 新たな科学技術的発見に関する場合】

本調査書7-1 a (2) 候補案件の成果の内容 (①本件成果の内容、②本件成果の特徴、従来との相違等) について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

## 7-3 a. 従来成果の内容【a. 新たな科学技術的発見に関する場合】

本調査書7-1 a (3) 従来成果の内容 (①従来成果の内容、②従来成果の問題点) について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

7-1 b. 業績の概要【b. 社会課題解決の場合】

(1) 当該分野における背景

当該分野における従来の状況を含め、本件業績の背景を記載。

- ・
- ・
- ・

(2) 候補案件の成果の内容

候補が行った総合的あるいは特定の科学技術のもたらす経済社会的効果予測等がもたらした効果（社会的、技術的な影響、効果等）を記載。

- ・
- ・
- ・

(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来の状況と比較のうえ、新たな産業・雇用の創設、社会経済に対する貢献等を記載すること。

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章は全て箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。（図表等の使用は不可。）
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

7-2 b. 候補案件の成果の内容【b. 社会課題解決の場合】

本調査書7-1 b (2) 候補案件の成果の内容、(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)

7-1c. 業績の概要【c. 新しい実施形態の構築等の場合】

(1) 当該分野における背景

当該分野における従来の状況を含め、本件業績の背景を記載。

- ・
- ・
- ・

(2) 候補案件の内容

候補が行った実施形態の構築等の内容が具体的に理解できるように記載。

- ・
- ・
- ・

(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来の状況と比較のうえ、本件がどのように科学技術分野の発展に貢献したかを記載すること。

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章は全て箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。



7-2c. 候補案件の成果の内容【c. 新しい実施形態の構築等の場合】

本調査書7-1c(2)候補案件の内容、(3)候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)

## 8. 候補案件の成果に関する主要特許・実用新案・論文（2件以内）

①登録番号・タイトル：特許第〇〇〇〇〇〇号 「〇〇〇〇装置」

②出願、登録年：〇〇〇〇年出願、〇〇〇〇年登録

③全発明者氏名（候補者氏名に下線）

④当該特許の概要

- ・
- ・
- ・

①論文名：「〇〇〇〇〇〇の研究」

②掲載誌名・巻（号）・ページ・発表年：〇〇学会誌 vol.〇 p〇～〇、〇〇〇〇年発表

③全執筆者氏名（候補者氏名に下線）

④当該論文の概要

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・候補案件の成果に関する受賞候補者の主要な特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）の登録番号、タイトル、出願年（西暦）、登録年（西暦）、全発明者氏名を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要について箇条書きで記載すること。出願中のものは記載しないこと。
- ・候補案件の成果に関する受賞候補者の推薦時点における主要な論文（発表済み（オンラインを含む）又は未発表の場合はアクセプト済みで、いずれも学協会等の査読付きの論文のみ）の論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、発表年（西暦）、全執筆者氏名を記載するとともに、当該論文の概要について箇条書きで記載すること。但し、発表未定の論文については記載しないこと。
- ・主要特許・実用新案・論文あわせて2件以内で記載すること。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、4枚程度にまとめること。（手書き・両面印刷不可）

## 令和4年度 科学技術賞 理解増進部門 候補調査書

### 1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、「理解増進」もしくは「普及啓発」とすること。
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、業績名には商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・、。 ）は使用しないこと。また、字間は空けないこと。

### 2. 受賞候補者

（筆頭者）	
ふりがな 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 （〇〇歳）（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生） （男）
所属・役職	（株）〇〇工業 〇〇開発部長 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
ふりがな 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 （〇〇歳）（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生） （男）
所属・役職	〇〇大学 〇〇学部 教授 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-2
ふりがな 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 （〇〇歳）（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生） （女）
所属・役職	（独）〇〇機構 主任研究員 （現職のみ記載すること）
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-3

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後に他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、5名以内とする。
- ・候補者は、全員が本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名には、必ずふりがなを付すこと。
- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も使用可とする。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・生年月日は、西暦で記入すること。
- ・株式会社は（株）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、独立行政法人は（独）、国立研究開発法人（国研）とし、役職は正確に記載すること。（様式科技9履歴書の現職の記載も同様とすること。）

## 3. 会社概要（※候補者が民間企業所属の場合のみ記入）

候補者氏名	団体名称	資本金(百万円)	会員数等(人)	資産等(百万円)	団体の業務
〇〇〇〇	(株) 〇〇工業				
〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇				

- ・民間企業所属の候補者の場合のみ、当該項目は記載すること。
- ・会社概要は、候補調査書作成時点における内容を記載する。
- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、全ての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・団体の概要を示す資料（パンフレット等）を添付すること。

## 4. 表彰歴 【候補案件の成果に関する受賞歴】

表彰年	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
〇〇〇〇年 (受賞者氏名: 〇〇〇〇)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
〇〇〇〇年 (受賞者氏名: 〇〇〇〇、 △△△△、□□□□)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(一社) 〇〇学会

- ・候補案件の成果に関する受賞について、全て記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年（西暦）、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、全ての受賞者氏名を記載順通りに記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載した全ての受賞について、記載した内容が客観的に確認できる資料（表彰状の写、表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）を添付すること。

## 5. 理解増進・普及啓発活動の実績

年度	理解増進・普及啓発活動の具体的内容
直近3か年度以前の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇〇〇年度に第1回の公開実験を開始</li> <li>・××××年度には〇〇市の後援によってx,xxx人が参加する△△教室で講演</li> <li>・</li> </ul>
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(公財) 〇〇協会主催の第〇回××展における公開実験を通じた科学への理解増進</li> <li>・〇〇市が実施する××教室において□□研究について講演</li> <li>・</li> </ul>
2019年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

- ・「直近3か年度以前の活動状況」欄は、過去3か年度以前の活動状況について簡潔にまとめて記載すること。
- ・「年度」欄には直近3か年度における各年度の理解増進活動或いは普及啓発活動の具体的内容について簡潔にまとめて記載すること。
- ・活動内容のわかる資料（新聞記事、パンフレット等）があれば写を添付すること。

## 6. 推薦機関

機関名		
代表者職名・氏名		
所在地等	〒 ー	
	TEL :	
推薦事務担当者		
所属 <sup>ふりがな</sup> ・氏名		
連絡先	TEL :	FAX :
	E-Mail :	

- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長から推薦依頼を受けた機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・「推薦事務担当者」欄については、今後当室からの事務的な連絡に対応し、確実に連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関にあるものとする。

## 7. 本件内容に関する問合せ先

所属 <sup>ふりがな</sup> ・氏名		
連絡先	TEL :	FAX :
	E-Mail :	

- ・「本件内容に関する問合せ先」欄には、候補の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む）に対して適切かつ確実に応答のできる者を記載すること。（ただし、候補者本人は不可。）
- ・必ず連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）

## 8-1. 業績の概要

## (1) 当該分野における普及啓発、理解増進の背景

当該分野における従来の状況を含め、本件活動の背景を記載。

- ・
- ・
- ・

## (2) 候補案件の成果の内容

本件活動の内容が具体的に理解できるように記載。

- ・
- ・
- ・

## (3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

科学技術の普及啓発、理解増進の観点から、本件活動が社会に及ぼした影響等を記載。

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章は全て箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

8-2. 候補案件の成果の内容

本調査書8-1(2)候補案件の成果の内容、(3)候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめること。
- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(プリントアウトした写真を直接貼付することは不可。ただし、パソコン等から画像データを取り込み貼付することは可とするが、1枚にまとめることを考慮して最小限の大きさとする。)

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（手書き・両面印刷不可）

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料  
「特許・実用新案一覧」

候補案件の成果に関する特許・実用新案一覧（全件記載のこと）

1. 特許第○○○○○○号 「○○の製造方法」  
○○○○年出願、○○○○年登録  
全発明者氏名：○○○○（株）○○工業○○開発部長
- ◎2. 特許第○○○○○○号 「○○の成型方法」（○○学会○○賞受賞）  
○○○○年出願、○○○○年登録  
全発明者氏名：○○○○（株）○○工業○○開発部長、△△△△、□□□□
3.  
:  
:  
:

- ・候補案件の成果に係る受賞候補者の全ての特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）の、登録番号、タイトル、出願年（西暦）、登録年（西暦）、全発明者氏名を記載すること。（本件成果と直接関係のない特許・実用新案については記載しないこと。出願中のものは記載しないこと。）
- ・様式科技1候補調査書「9. 候補者の成果に関する主要特許・実用新案・論文」及び様式科技2候補調査書「8. 候補者の成果に関する主要特許・実用新案・論文」に記載した特許については、本資料にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・「全発明者氏名」欄について、氏名を特許・登録公報（旧公告広報）と同じ順番で省略せずに全て記載し、受賞候補者は特許出願時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
- ・一覧に記載した特許・実用新案に関連する発明について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの後にかっこ書きで記載すること。
- ・一覧に記載した全ての特許又は実用新案の特許・登録公報（旧公告広報）の写を添付すること。（公開特許公報は登録の確認ができないため不可）（写はA4縦用紙で統一し、1件ごとに左肩をホチキスで留め、右肩に一覧に記載した通し番号を付記すること。両面印刷可。）



◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（手書き・両面印刷不可）

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料  
「研究論文一覧」

候補案件の成果に関する研究論文一覧（全件記載のこと）

- ◎ 1. ○○○○（(株)○○工業○○開発部長）、△△△△、□□□□、  
「○○○○の研究」（○○学会○○賞受賞）、○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○○○年発表、DOIコード：
  - 2. ○○○○（(株)○○工業○○開発部長）、□□□□、◇◇◇◇、「○○○○の効果的利用について」、○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○○○年発表、DOIコード：
  3. ○○○○（(株)○○工業○○開発部長）、□□□□、◇◇◇◇  
「○○○○の開発について」（アクセプト済み）、○○○○誌、（○○○○年発表予定）
- :  
:  
:

- ・候補案件の成果に関係する受賞候補者の推薦時点における全ての論文（発表済み（オンラインを含む）又は未発表の場合はアクセプト済みで、いずれも学協会等の査読付きの論文のみ）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、発表年（西暦）、DOIコード（もしあれば）を記載すること。（本件成果と直接関係のない論文、発表未定の論文については記載しないこと。）
- ・開発部門、研究部門、技術部門においては、候補調査書「9. 候補案件の成果に関する主要な特許・実用新案・論文」に、科学技術振興部門においては、候補調査書「8. 候補案件の成果に関する主要な特許・実用新案・論文」に記載した論文については、本資料にも記載するとともに、◎印を付すこと。その他の特に重要な論文には○印を付し、◎と○の合計が5件以内となるようにすること。
- ・「全執筆者氏名」について、氏名を論文と同じ順番で省略せずに全て記載し、受賞候補者は発表当時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
- ・本資料に記載した論文に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文名の後にかっこ書きで記載すること。
- ・未発表の場合のアクセプト済み論文は、論文名の直後にかっこ書きで「(アクセプト済み)」と記載すること。
- ・本資料に記載した全ての論文の写を添付すること。その際、論文の発表年の記載が無いもの又は未発表の場合のアクセプト済みのものは、それらの確認ができる資料も提出すること。（写はA4縦用紙で統一し、論文1件ごとに左肩をホチキスで留め、右肩に一覧に記載した通し番号を付記すること。両面印刷可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（手書き・両面印刷不可）

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料  
「著書一覧」

候補案件の成果に関する著書一覧（全件記載のこと）

1. ○○○○（株）○○工業○○開発部長）、△△△△、□□□□、  
「○○○○の研究」（○○学会○○賞受賞）、○○○○社（○○部発行）、○○○○年発行
  2. □□□□、○○○○（株）○○工業○○開発部長）、◇◇◇◇  
「○○○○の効果的利用」、○○○○社（○○部発行）、○○○○年発行
  3. ○○○○（株）○○工業○○開発部長）、□□□□、◇◇◇◇  
「○○○○の開発」、○○○○社（○○部発行）、○○○○年発行
- ：
- ：

- ・候補案件の成果に関係する受賞候補者の全ての著書について、全執筆者氏名、著書名、出版社名、発行部数、発行年（西暦）を記載すること。（本件成果と直接関係のない著書については記載しないこと。）
- ・「全執筆者氏名」について、氏名を著書と同じ順番で省略せずに全て記載し、受賞候補者は発表当時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
- ・本資料に記載した著書に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を著書名の後に記載すること。
- ・本資料に記載した全ての著書については、表紙及びまえがきの写を添付すること。（写はA4縦用紙で統一し、1件ごとに左肩をホチキスで留め、右肩に一覧の記載した通し番号を付記すること。両面印刷不可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（手書き・両面印刷不可）

科学技術賞 { 科学技術振興 } 部門 候補調査書付属資料  
 { 理解増進 }

「講演一覧」

- ・表題は、部門を選択又は記載すること。

候補案件の成果に関する講演一覧（全件記載のこと）

1. ○○○○年、○○○○セミナー（○○○○主催）、「○○○○の○○について」  
 講演者：○○○○（(株)○○工業○○開発部長）
  2. ○○○○年、○○○○セミナー（○○○○主催）、「○○○○の○○について」  
 講演者：○○○○（○○大学教授）
  - 3.
- :  
:  
:

- ・表彰対象候補案件の成果に関する受賞候補者の全ての講演について、講演年（西暦）、セミナー等名称（主催団体名）、演題、講演者名を記載すること。（本件成果と直接関係のない講演については記載しないこと。）
- ・本件候補者氏名には、講演当時の役職を記載し、下線を付すこと。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（手書き・両面印刷不可）

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料  
「新聞等掲載状況一覧」

候補案件の成果を取り上げた新聞記事等一覧（全件記載のこと）

<p>1. ○○○○年掲載、○○新聞（○面）、「○○○○の○○について」</p> <p>◎2. ○○○○年掲載、△△新聞（○面）、「○○○○の○○について」</p> <p>◎3. ○○○○年発刊、△△誌（p○～○）、「○○○○の○○について」</p> <p style="text-align: center;">:</p> <p style="text-align: center;">:</p> <p style="text-align: center;">:</p>

- ・候補案件の成果を取り上げた全ての新聞記事、雑誌等について、掲載・発刊年（西暦）、掲載紙・雑誌名、タイトルを記載すること。（本件成果に直接関係ない新聞記事等については記載しないこと。）
- ・一覧に記載した新聞記事等のうち、候補案件の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写を添付すること。ただし、添付する新聞記事等は5件以内とする。（写は、A4縦用紙に切り抜き記事を貼付し、コピーしたもの。新聞記事等1件ごとに左肩をホチキスで留め、右肩に一覧に記載した通し番号を付記すること。両面印刷不可。）
- ・写を添付した通し番号に◎を付すこと。

## 履 歴 書

ふりがな  
氏名 ○ ○ ○ ○  
(戸籍に記載されている旧姓も使用可とする)

生年月日 ○○○○ (以下西暦) 年○○月○○日 (○○歳) (表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。)

現住所 ○○県○○市○○町 1-1  
現職 (株)○○工業 代表取締役社長

## (学 歴)

○○○○年○○月○○日 ○○大学○○学部○○学科卒業  
○○○○年○○月○○日 ○○大学院○○研究科○○専攻修了

## (職 歴)

自○○○○年○○月○○日 (株)○○工業 入社  
至○○○○年○○月○○日  
自○○○○年○○月○○日 (株)○○工業 ○○課長  
至○○○○年○○月○○日  
自○○○○年○○月○○日 (株)○○工業 代表取締役社長  
至 現 在

## (公 職 歴)

自○○○○年○○月○○日 ○○会議 ○○委員  
至 現 在

## (民間団体歴)

自○○○○年○○月○○日 (公財)○○協会 理事  
至 現 在

## (賞 罰)

表彰年	表彰名称	表彰主催団体名	受賞者
○○○○年	○○賞	(一財)○○協会	本人他○名

(様式科技1~3 4. 表彰歴で記載したものは記載を省略すること)

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料に不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件については、審査の対象から除外する。
- ・本推薦書は、研究部門に申請する個人推薦の候補者の場合のみ提出すること。
- ・本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者（3名）がそれぞれの視点から記載すること。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。なお、本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないこと。
- ・英語で記載する場合には別途和訳を添付すること。
- ・本推薦書は、A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上・手書き不可）1枚で作成し、記載者1人につき、正・副各1部を提出すること。

科学技術賞 研究部門 候補者推薦書

年 月 日

推薦者			
所属機関 役職・氏名		推薦者署名欄 (自筆にて記載)	
候補者との関係			
所在地	〒      —		
連絡先	TEL :	FAX :	
	E-Mail :		

候補者	
所属機関 役職・氏名	
候補案件とする 研究テーマ	
共同研究の場合の 共同研究者氏名・役職	
候補案件とする研究テーマについて	
1. 当該研究テーマの概要	
2. 当該研究テーマの遂行・進捗における候補者の担当領域の内容・特筆すべき事項(貢献の具体的内容)	

科学技術賞 候補者一覧表

番号	賞区分	候補者氏名	生年月日	年齢	性別	所属・役職	業績名	推薦歴/受賞歴	推薦機関名	推薦機関担当者					
										郵便番号	住所	所属役職名	担当者名	連絡先 (TEL)	連絡先 (mail)
1										-					
2										-					
3										-					
4										-					
5										-					
6										-					
7										-					
8										-					
9										-					
10										-					

(記載上の注意)

- ・セルの縮小、サイズの変更は行わないこと。また、同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、全ての内容を候補者毎に記載すること。
- ・候補者が多数いる場合には、行を追加して記載すること、その際A列の番号も入力すること。
- ・**※既存の行を、行ごとコピー・挿入すること (0～S列の関数を反映させるため)**
- ・「賞区分」には、ブルダウンスリストから該当するものを選択すること。
- 科学技術賞開発部門→「開発」
- 科学技術賞研究部門→「研究」
- 科学技術賞科学技術振興部門→「振興」
- 科学技術賞技術部門→「技術」
- 科学技術賞管理増進部門→「理解」
- ・「氏名 (旧姓も使用可)」「所属・役職」「業績名」は、候補調査書と同じ記載とすること (当該様式においては、氏名に外字を含む場合は環境に依存しない文字に置き換えること)。
- ・「生年月日」は、半角で「(西暦)〇〇〇/〇〇/〇〇」と記入すること。(例) 2000/1/1
- ※「年齢」は、生年月日を入力すると自動入力されます。
- ・「業績名」が、様式科技1～3の「1.業績名」の記載ルールを満たしていない場合、セルが赤くなるので、修正すること。
- ※修正すべき箇所は、0～S列「修正事由」を参照してください (Xの場合、要件を満たしていません)。
- ・「推薦歴/受賞歴」には、過去に当表彰の推薦・受賞がある候補者について、その年度と賞区分を記載すること。(例：令和3年度表彰の開発部門に推薦された場合は、R03開発推薦 と記載。)
- ・「推薦機関名」には、国立大学法人〇〇大学、公益社団法人〇〇協会 等と法人名を省略せず記載すること。
- ・「推薦機関担当者」には、今後当室からの事務的な連絡や書類の確認依頼に対応する者を記載すること。

科学技術賞 業績概要一覧表

【様式科技12】

番号	申請部門	分野	氏名 (筆頭者)	年齢	性別	所属・役職	過去の推薦歴・受賞歴	住所	業績名	業績のポイント	推薦機関
	振興	F (科学技術政策、人文・社会科学)	〇〇〇 〇〇〇	47	女	〇〇大学 大学院〇〇 研究科 教授	無	東京都	〇〇と〇〇〇〇 に関する〇〇〇〇 〇に資する〇〇〇 〇〇の振興	(1)候補案件の成果の内容 (2)候補案件の特徴、従来技術との相違等 (3)候補案件の成果による社会的効果・実施効果 <b>※印刷した際に枠内に文字が収まっていることを確認して下さい。</b> <b>※(1)～(3)の各項目は削除しないでください。 (ただし、理解増進部門の場合は(2)を削除してください。)</b>	国立大学法人 〇〇大学
〇〇 〇〇			53	男	(独)〇〇研究機構 〇〇 研究センター 〇〇ゲ ルーブリーダー	無	広島県				
〇〇 〇〇			42	男	〇〇(株) 〇〇研究所 主任	H30研究推薦	山形県				

【記入上の注意】

- ①1つの業績につき、1ファイル作成してください。
  - ②「番号」欄の記載は不要です。
  - ③「申請部門」欄には、候補調査書に記載した部門をプルダウンより選択してください。
  - ④「分野」欄には、候補案件の成果について関係する分野を、次の中からプルダウンで選び記号を記入してください。  
【分野】A(数学・物理)、B(工学)、C(材料・化学)、D(生命・医学・農学)、E(情報)、F(科学技術政策、人文・社会科学)  
※適当な分野がない場合は最も近い分野を選択して記入してください。例 工学分野の場合「B」と記入
  - ⑤各欄の記載は、候補調査書の記載内容に合わせて作成ください。「業績のポイント」欄には、候補調査書【様式科技1】、【様式科技3】「8-1. 業績の概要」(振興部門は【様式科技2】「7-1. 業績の概要」)に記述した内容を簡潔に記載してください。文中には候補者の実名は出さず、「候補者は～を開発した」のような記述スタイルで統一してください。
  - ⑥E列の「年齢」欄は、M列の「生年月日」欄を入力すると令和4年4月1日時点で自動入力されます。※「生年月日」は、半角で「(西暦)〇〇〇〇/〇〇/〇〇」と記入すること。(例)2000/1/1
  - ⑦「推薦機関」欄には、〇〇省、〇〇県、国(公)立大学法人〇〇大学、〇〇大学、〇〇法人〇〇学会 等と法人名を省略せずに記載してください。
  - ⑧「業績名」欄が、様式科技1～3の「1. 業績名」の記載ルールを満たしていない場合、セルが赤くなりますので、修正してください。  
※修正すべき箇所は、N列「判定」欄、O列「修正事由」欄を参照してください(N列が×の場合、要件を満たしていません)。
- ※当方にて指定した「書式設定」(セルの幅、高さ、フォントサイズ等)は絶対に変えないでください。



### (3) 文部科学大臣表彰若手科学者賞

#### 表彰対象

1. 若手科学者賞は、次代を担う若手研究者の自立を促し、独創性の高い科学技術の発信に貢献するため、萌芽的な研究あるいは、独創的視点に立った研究等、高い研究開発能力を示した若手研究者を表彰する。
2. 若手科学者賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。  
萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人

- \* 1 「萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人」とは
  - ・ 科学技術の各分野において、新たな研究手法、独創的な視点に立った研究手法等によりその研究能力あるいは開発能力の優秀性を示す顕著な業績をあげた者
  - ・ 学会表彰等により、研究の独創性等が客観的に評価されている者
  - ・ 国際的に高い評価を得ている学会誌・雑誌等に論文が掲載される等、その優秀性が客観的に評価されている者
- \* 2 「若手研究者」とは
  - ・ 受賞時（表彰年度の4月1日現在）において40歳未満の研究者  
（なお、上記年齢制限内であれば日本学術振興会特別研究員も対象になります）

- ① 申請可能な系・分野  
「若手科学者賞申請分野分類表」（72～73ページ）の中から選択すること。
- ② 推薦機関における候補者選考にあたっての注意事項  
各推薦機関における候補者の選考にあたって、以下の点に留意すること。
  - ・ 例年、女性候補者の推薦件数が極めて少ない現状に鑑み、各推薦機関は【様式若手8】「若手科学者賞推薦状況男女構成確認表」を作成し、これを考慮しつつ候補者の選定を行うこと。
- ③ 個人情報取り扱いについて
  - ・ 候補調査書及び候補調査書付属資料に含まれる個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき管理し、本表彰審査のために利用する。  
（受賞者の氏名・年齢・顔写真、所属・役職、業績名、業績概要、推薦機関名等は公表されますので予め御承知願います。）

## ○推薦に必要な書類

以下の様式を、以下の注意事項に従って作成し、次項の提出方法に従って提出すること。

- ① 【様式若手1】候補調査書  
申請書類記載要領（66～71 ページ）をよく読み作成すること。
- ② 【様式若手2】候補調査書（主要業績）  
申請書類記載要領（66～71 ページ）をよく読み作成すること。
- ③ 【様式若手3】候補調査書付属資料（成果一覧）  
申請書類記載要領（66～71 ページ）をよく読み作成すること。
- ④ 【様式若手4】履歴書  
申請書類記載要領（66～71 ページ）をよく読み作成すること。
- ⑤ 【様式若手5】候補者推薦書（推薦者の自筆署名が記載済みのもの）3名分  
申請書類記載要領（66～71 ページ）をよく読み作成すること。
- ⑥ 添付資料
  - (i) ・【様式若手2】2-3に記載した主要論文・特許・実用新案等は、申請書類記載要領（66～71 ページ）に従って全て A4 用紙となるように1つの PDF ファイルにまとめ、ファイル名を「【推薦機関名】候補者氏名主要論文・特許・実用新案等」とすること。
  - (ii) ・【様式若手3】に記載した論文等及び登録特許・実用新案のうち、オンラインで閲覧可能な URL を載せることができないもので【様式若手2】2-3に記載していないものは、論文等及び登録特許・実用新案の写の PDF を別添すること。論文の発表年の記載が無いもの又は未発表だがアクセプト済みのものは、それが確認できる資料も添付すること。
    - ・【様式若手1】1-4に記載した表彰歴に関する資料、【様式若手3】3-3に記載した著書に関する資料、3-4に記載した新聞等に関する資料も添付資料として作成すること。
    - ・【様式若手1】、【様式若手3】添付資料ファイル名は「【推薦機関名】候補者氏名添付資料」とし、「表彰歴」、「論文の発表年証明」、「アクセプト証明」、「論文」、「特許・実用新案」「著書」「新聞等」の順にし、全て A4 用紙となるように PDF 化した上で、1つのファイルにまとめること。
- ⑦ 【様式若手6】候補者一覧表  
・Excel で作成し、ファイル名は「【推薦機関名】若手候補者一覧表」とすること。
- ⑧ 【様式若手7】業績概要一覧表  
・Excel で作成し、ファイル名は「【推薦機関名】候補者氏名\_若手業績概要一覧表」とすること。  
※業績概要一覧表は、1つの業績につき1ファイル作成してください。
- ⑨ 【様式若手8】若手科学者賞推薦状況男女構成確認表  
・Excel で作成し、ファイル名は「【推薦機関名】若手推薦状況男女構成確認表」とすること。
- ⑩ 戸籍抄本
  - ・戸籍抄本は原則令和3年4月1日以降に発行されたものを提出すること。
  - ・ただし、外国籍の場合は、戸籍抄本に代えて、個人番号（マイナンバー）のない住民票を提出すること。

## ○申請書類提出方法

文部科学大臣表彰若手科学者賞への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書、候補調査書付属資料、特許・論文の写し等の各種書類を、以下の要領に従い提出すること。

なお、審査過程で必要に応じて追加提出を求められることがある。

### 《メール》

提出専用アドレス (kagihyosyo@mext.go.jp) に電子データで以下のことに注意してメールを送付すること。

- (1) 件名は「【提出（推薦機関名）】若手科学者賞申請書類」とする。
- (2) 連絡先として、メール本文に「【推薦機関名・推薦事務担当者の所属、氏名・電話番号・メールアドレス】」を記入する。
- (3) 前項の申請書類①～⑤は、候補者ごとに一つの PDF ファイルにまとめる。そのファイル名は「【推薦機関名】候補者氏名申請書類」とする。
- (4) 候補者ごとにフォルダを作成し、フォルダ名を「【推薦機関名】候補者氏名」とすること。
  - ①～⑤をまとめた「【推薦機関名】候補者氏名申請書類」と、
  - ⑥ (i) 「【推薦機関名】候補者氏名主要論文・特許・実用新案等」、
  - ⑥ (ii) 「【推薦機関名】候補者氏名添付資料」の3種類の PDF ファイルをこのフォルダの中に入れること。
- (5) 電子データ提出書類は、
  - 「申請書類（候補者ごとにまとめたフォルダ）」、
  - 「⑦候補者一覧表(Excel)」、
  - 「⑧業績概要一覧表(Excel)」、
  - 「⑨若手科学者賞候補対象者男女構成確認表(Excel)」の4種類である。
- (6) 送付するメール1通あたりの容量は10MB以内とする。

### 《郵送》

【〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省 研究振興局振興企画課奨励室】宛てに以下の書類を郵送すること。(全て同じ封筒とすること)

- (1) 申請書類チェックリスト(推薦依頼の別添として送付したもの。推薦機関で1部)
- (2) ⑦候補者一覧表(通信障害等で書類が届かない等の問題が起こりうるため電子データだけでなく書類でも必ず提出すること)
- (3) 戸籍抄本  
※B5サイズの戸籍抄本(外国籍の受賞候補者は住民票)の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。  
※候補が複数名の場合、戸籍抄本(外国籍の受賞候補者は住民票)は、候補者一覧表の順に並べ、左肩クリップ留めとすること。

科学技術分野の文部科学大臣表彰 推薦様式提出方法一覧表（若手科学者賞）

(参考)

必要様式		若手科学者賞			提出窓口	問い合わせ窓口
		ファイル名	ファイル形式	フォルダ名		
①様式若手1 ②様式若手2 ③様式若手3 ④様式若手4 ⑤様式若手5	「候補調査書」	【推薦機関名】（候補者氏名）申請書類	PDF	【推薦機関名】（候補者氏名）	(電子媒体) kagihyosyo@mext.go.jp	TEL: 03-6734-4071 E-mail: sinsyore@mext.go.jp
	「主要業績」					
	「成果一覧」					
	「履歴書」					
	「候補者推薦書」					
⑥添付資料	「主要論文・特許・実用新案等」	【推薦機関名】（候補者氏名）主要論文・特許・実用新案	PDF	【推薦機関名】（候補者氏名）	kagihyosyo@mext.go.jp	TEL: 03-6734-4071 E-mail: sinsyore@mext.go.jp
	「表彰歴」					
	「論文の発表年証明」					
	「アクセプト証明」					
	「論文」					
	「特許・実用新案」					
「著書」						
⑦様式若手6 ⑧様式若手7 ⑨様式若手8	「新聞等」	【推薦機関名】（候補者氏名）添付資料	PDF	【推薦機関名】（候補者氏名）	kagihyosyo@mext.go.jp	TEL: 03-6734-4071 E-mail: sinsyore@mext.go.jp
	「候補者一覧表」					
	「業績概要一覧表」					
⑩様式若手9 ⑪様式若手10	「推薦状況男女構成確認表」	【推薦機関名】若手推薦状況男女構成確認表	Excel	【推薦機関名】（候補者氏名）	kagihyosyo@mext.go.jp	TEL: 03-6734-4071 E-mail: sinsyore@mext.go.jp
	「戸籍抄本」（外国籍の場合住民票）					
⑫様式若手11	申請書類チェックリスト（推薦機関毎に1部）	【推薦機関名】若手推薦状況男女構成確認表	Excel	【推薦機関名】（候補者氏名）	kagihyosyo@mext.go.jp	TEL: 03-6734-4071 E-mail: sinsyore@mext.go.jp

## 令和4年度 若手科学者賞 候補調査書

推薦機関名	
-------	--

## 1-1. 業績名

大区分（分野）	
中区分（分科）	
小区分（細目）	

※別表『若手科学者賞 申請分野分類表』に従い、業績名がどのような研究分野に属するかについて、記載すること。

## 1-2. 受賞候補者

ふりがな	
氏名	
生年月日（西暦）	
年齢（2022年4月1日時点）	
性別	
所属・役職	
現住所	

## 1-3. 研究経歴【候補案件における経歴】

年月日（西暦）	所属・役職	研究テーマ
本業績にかかる研究期間		

## 1-4. 表彰歴【候補案件の成果に関する受賞歴】

1	表彰年（西暦）	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	表彰業績名	
	主催団体名	
2	表彰年（西暦）	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	表彰業績名	
	主催団体名	

## 1-5. 推薦機関等

推薦機関名		
代表者職名・氏名		
所在地等		
事務担当者	氏名	
	所属・役職	
	TEL・FAX	
	E-mail	

## 1-6. 内容に関する問合せ先

氏名	
所属・役職	
TEL・FAX	
E-mail	

## 若手科学者賞 候補調査書 (主要業績)

### 2-1. 業績の概要

候補案件とする研究テーマ	
候補者氏名（役職）	
共同研究者氏名（役職）	
共同研究における 候補者の担当領域または役割	

#### (1) 当該分野における位置付け

- ・
- ・
- ・

#### (2) 具体的内容

##### ①本候補者の研究の内容

- ・
- ・
- ・

##### ②本候補者の着眼点とその論理的根拠

- ・
- ・
- ・

#### (3) 当該分野における研究のながれ

- ・
- ・
- ・

#### (4) 当該分野における本候補者の着眼点の優秀性

- ・
- ・
- ・

#### (5) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

- ・

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること

## 2-2. 候補案件とする研究テーマの内容

本調査書2-1(2) 具体的内容 (①本候補者の研究の内容、②本候補者の着眼点とその論理的根拠)、(4) 当該分野における本候補者の着眼点の優秀性について、図表を用いて理解し易く説明すること。

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること



## 2-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案等（5件以内）

<p>1. <u>△△△△</u>、○○○○、□□□□、「○○○○の開発とその効果について」○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○○○年発表、貢献度○%</p> <p>.</p> <p>.</p>
<p>2. ○○○○、◇◇◇◇、<u>△△△△</u>他、「○○○○の効果的利用について」○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○○○年発表、貢献度○%</p> <p>.</p> <p>.</p>
<p>3. <u>△△△△</u>、「○○○○の研究」○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○○○年発表、○○学会、○○○○年開催、査読有、貢献度○%</p> <p>.</p> <p>.</p>
<p>4. 特許第○○○○○○○号 「○○の製造方法」、<u>△△△△</u>、○○○○、○○○○年出願、○○○○年登録、貢献度○%</p> <p>.</p> <p>.</p>
<p>5. 特許第○○○○○○○号 「○○○の成型方法」、<u>△△△△</u>、□□□□、○○○○年出願、○○○○年登録、貢献度○%</p> <p>.</p> <p>.</p>

注) 印刷時にA 4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること

若手科学者賞 候補調査書付属資料 (成果一覧)

3-1. 論文等一覧

◎ 1. △△△△ (〇〇大学教授)、〇〇〇〇、□□□□、「〇〇〇〇の開発とその効果について」  
(〇〇学会〇〇賞受賞)、〇〇学会誌vol. 〇 p〇~〇、〇〇〇〇年発表、  
URL :

◎ 2. △△△△ (〇〇研究員)、〇〇〇〇、「〇〇〇〇の研究」、〇〇学会誌vol. 〇 p〇~〇、〇  
〇〇〇年発表、〇〇学会、〇年開催、査読 有、URL : 資料添付

3. △△△△ (〇〇大学教授)、〇〇〇〇、「〇〇〇〇の研究」(アクセプト済み)、〇〇学会誌  
vol. 〇 p〇~〇、〇〇〇〇年発表予定、URL : 資料添付

(参考) 上記研究論文を含む推薦時点における発表及び未発表だがアクセプト済みの総論文数\_\_\_\_件

### 3-2. 特許・実用新案一覧

- ◎ 1. 特許第〇〇〇〇〇〇号「〇〇の製造方法」  
〇〇〇〇年出願、〇〇〇〇年登録  
全発明者氏名：△△△△（〇〇大学教授）、〇〇〇〇  
URL：<https://www.j-platpat>. . . .
- ◎ 2. 特許第〇〇〇〇〇〇号「〇〇〇の成型方法」（〇〇学会〇〇賞受賞）  
〇〇〇〇年出願、〇〇〇〇年登録  
全発明者氏名：△△△△（〇〇大学教授）、□□□□  
URL：資料添付

### 3-3. 著書一覧

1. 〇〇〇〇 (〇〇大学教授)、△△△△、□□□□、  
「〇〇〇〇の研究」(〇〇学会〇〇賞受賞)、〇〇〇〇社(〇〇部発行)、〇〇〇〇年発行
2. □□□□、〇〇〇〇 (〇〇大学教授)、◇◇◇◇  
「〇〇〇〇の効果的利用」、〇〇〇〇社(〇〇部発行)、〇〇〇〇年発行
3. 〇〇〇〇 (〇〇大学研究員)、□□□□、◇◇◇◇  
「〇〇〇〇の開発」、〇〇〇〇社(〇〇部発行)、〇〇〇〇年発行

## 3-4. 新聞等掲載状況一覧

◎1	掲載・発刊年（西暦）	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	
2	掲載・発刊年（西暦）	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	
3	掲載・発刊年（西暦）	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	
◎4	掲載・発刊年（西暦）	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	

.

.

.

◎15	掲載・発刊年（西暦）	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	

## 若手科学者賞 履歴書

ふりがな	もんか はなこ
氏名	文科 花子
生年月日 (西暦)	
年齢 (2022年4月1日時点)	
性別	
所属・役職	〇〇大学 〇〇学部 准教授
現住所	〒123-456 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1

## 1. 学歴

卒業/修了年月日 (西暦)	大学名・専攻等
	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 卒業
	〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻 修士課程修了
	〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻 博士課程修了

## 2. 職歴

自 至	年月日 (西暦)	勤務先名称等	役職等
		〇〇大学 〇〇学部	研究助手
		〇〇大学 〇〇学部	助教
	現在	〇〇大学 〇〇学部	准教授

## 3. 公職歴

自 至	年月日 (西暦)	勤務先名称等	役職等
		〇〇会議	委員
	現在	〇〇会議	委員

## 4. 民間団体歴

自	年月日 (西暦)	勤務先名称等	役職等
至	年月日 (西暦)		
	-----	〇〇学会	運営委員
	-----	〇〇学会	運営委員
	現在		

## 5. 賞罰

1	表彰年 (西暦)	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	主催団体名	
2	表彰年 (西暦)	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	主催団体名	

※【様式若手 1】 1 - 4. で記載した表彰歴は省略している。

## 若手科学者賞 候補者推薦書

記載日：〇〇〇〇年〇月〇日

推薦者			
候補者との関係			
氏名		推薦者署名欄 (自筆にて記載)	
所属・役職			
所在地		〒 —	
連絡先		TEL:	FAX:
		E-mail:	
候補者 (候補者本人が記載すること)			
業績名			
氏名			
所属・役職			

候補案件とする研究テーマについて
1. 当該研究テーマの概要
2. 当該研究テーマの遂行・進捗における候補者の担当領域の内容・特筆すべき事項(貢献の具体的内容)

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること



若手科学者賞 候補者一覧表

番号	賞区分	候補者氏名	生年月日	年齢	性別	所属・役職	業績名	推薦歴/受賞歴	推薦機関名	推薦機関担当者					
										郵便番号	住所	所属役職名	担当者名	連絡先 (TEL)	連絡先 (mail)
1	若手														
2	若手														
3	若手														
4	若手														
5	若手														
6	若手														
7	若手														
8	若手														
9	若手														
10	若手														

(記載上の注意)

- ・セルの結合、サイズの変更は行わないこと。
- ・候補者が多数いる場合には、行を追加して記載すること、その際A列の番号も入力すること。
- ・「氏名(旧姓も使用可)」「所属・役職」「業績名」は、候補調査書と同じ記載とすること(当該様式においては、氏名に外字を含む場合は環境に依存しない文字に置き換えること)。
- ・「生年月日」は、半角で「(西暦) OOOO/OO/OO」と記入すること。(例) 2000/1/1
- ・「年齢」は、生年月日を入力すると自動入力されます。セルが赤くなる場合は年齢要件を満たしていません。
- ・「業績名」が、申請書類記載要領の記載ルールを満たしていない場合、セルが赤くなるので、修正すること。
- ・※修正すべき箇所は、Q～S列「修正事由」を参照してください(×の場合、要件を満たしていません)。
- ・「推薦歴/受賞歴」には、過去に当表彰の推薦・受賞がある候補者について、その年度と賞区分を記載すること。(例：令和3年度表彰の若手科学者賞に推薦された場合は、R03若手推薦 と記載。)
- ・「推薦機関名」には、国立大学法人○○大学、公益社団法人○○協会 等と法人名を省略せず記載すること。
- ・「推薦機関担当者」には、今後当室からの事務的な連絡や書類の確認依頼に対応する者を記載すること。

若手科学者賞 業績概要一覧表

【様式若手7】

番号	分野		氏名	年齢	性別	所属・役職	過去の推薦歴・受賞歴	住所	業績	業績のポイント	推薦機関
	分野	細目									
			〇〇 〇〇〇	36	女	〇〇大学 大学院 〇 研究科 助教	R02若手推 薦	東京都	〇〇〇と〇〇〇〇 に関する〇〇〇〇 〇に資する〇〇 〇〇の研究	(1) 具体的内容 ① 本候補者の研究内容 ② 本候補者の着眼点とその論理的根拠 (2) 当該分野における研究のなかかれ <b>※印刷した際に枠内に文字が収まっていることを確認してください。</b> <b>※(1)(2)の各項目は削除しないでください。</b>	国立大学法人 〇〇大学

【記入上の注意】

① 1つの業績につき、1ファイル作成してください。

② 「番号」欄の記載は不要です。

③ 「分野」欄には、候補調査書に記載した分野を記入してください。

④ 各欄の記載は、候補調査書の記載内容に合わせて作成ください。「業績のポイント」欄には、候補調査書【様式若手2】「2-1.業績の概要」に記載した内容を簡潔に記載してください。

本文中には候補者の実名は出さず、「候補者は～を研究した」のような記述スタイルで統一してください。

⑤ F3セルの「年齢」欄は、N3セルの「生年月日」欄を入力すると令和4年4月1日時点で自動入力されます。

※ 「生年月日」は、半角で「(西暦)〇〇〇〇/〇〇/〇〇」と記入すること。(例)2000/1/1

⑦ 「推薦機関」欄には、〇〇省、〇〇県、国(公)立大学法人〇〇大学、〇〇大学、〇〇法人〇〇学会 等と法人名を省略せずに記載してください。

⑧ 「業績名」欄が、申請書類記載要領の記載ルールを満たしていない場合、セルが赤くなりますので、修正してください。

※ 修正すべき箇所は、〇列「判定」欄、P列「修正事由」欄を参照してください(〇列が×の場合、要件を満たしていません)。

※ 当方にて指定した「書式設定」(セルの幅、高さ、フォントサイズ等)は絶対に変えないでください。

若手科学者賞推薦状況男女構成確認表

推薦機関名	表彰年度	候補対象者				被推薦者				受賞者	
		総数(人)	うち女性(人)	女性割合(%)	総数(人)	うち女性(人)	女性割合(%)	総数(人)	うち女性(人)		
	令和4年度										
	令和3年度										
	令和2年度										
	平成31年度										

- ・「候補対象者」は、各推薦機関における各表彰年度4月1日時点での40歳未満の若手科学者賞候補対象者とする。
- ・「候補対象者」欄は、総数及び「うち女性」数を記入すること。
- ・「被推薦者」欄は、各年度の若手科学者賞に推薦された者の数及び「うち女性」数を記入すること。
- ・「受賞者」欄は、各年度の科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞者数及び「うち女性」数を記入すること。

## 若手科学者賞 申請書類記載要領

申請書類は、様式を文部科学省ホームページよりダウンロードし、作成にあたっては、本記載要領をよく確認すること。

### 【全様式 共通事項】

- ・日本語で記入すること（論文名等は除く）。
- ・様式の記載欄は加工せず、全てA4縦用紙で作成すること。ただし、以下の項目については、必要に応じて行を追加することも可とする。  
【様式若手1】1-3. 研究経歴 1-4. 表彰歴  
【様式若手3】全項目  
【様式若手4】全項目
- ・書式設定（余白等）を変えないこと。
- ・文字はフォントサイズを10.5ポイントに設定すること（手書き不可）。
- ・URLには、ハイパーリンクを付すこと。
- ・各様式に記載できる内容は、提出締切日前に論文・特許等で成果が公に発表されている、又は発表が決まっており、その業績を客観的に確認できるものとする（特許・実用新案については、登録されているものに限る）。
- ・全ての申請書類について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。

### 【様式若手1】候補調査書

#### 1-1. 業績名

- ・候補案件とする研究テーマの内容を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・語尾は「研究」とすること。
- ・語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・ 、 ）を使用しないこと。また、字間は空けないこと。
- ・「大区分・中区分・小区分」欄は、別表「若手科学者賞 申請分野分類表」に従い、候補案件がどのような研究分野に属するかについて、記載すること。

#### 1-2. 受賞候補者

- ・氏名欄には、公表を希望する文字を記載すること。
- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も使用可とする。
- ・氏名には、必ずふりがなを付すこと。氏名・ふりがなはそれぞれ姓名の間を一字分空けること。

- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・所属について、独立行政法人は（独）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、株式会社は（株）、国立研究開発法人（国研）とし、役職は正確に記載すること（【様式若手4】履歴書への記載と一致させること）。

#### 1-3. 研究経歴

- ・候補案件とする研究テーマにおける研究経歴について、大学院在籍時以降全て記載すること。
- ・「研究テーマ」欄について、携わった研究テーマをそれぞれ「所属・役職」に対応するように記載する。
- ・「本業績にかかる研究期間」欄の終期は、研究が継続中の場合、「～継続中」と記載すること。

#### 1-4. 表彰歴【候補案件の成果に関する受賞歴】

- ・候補案件とする研究テーマにおいて、受賞候補者が表彰を受けた事項を全て記載すること。
- ・表彰年、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、全ての受賞者氏名を記載順通りに記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載した全ての受賞について、記載した内容が客観的に確認できる資料（表彰状の写、表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）を、右肩に本項に記載した順の通し番号を付記し、PDF ファイルにまとめること。（⑥添付資料（48 ページ）参照）

#### 1-5. 推薦機関等

- ・推薦機関（文部科学省から推薦依頼を受けた機関）又は個人推薦（海外を拠点に研究活動等を行う場合）の推薦者を記入すること。
- ・事務担当者は、今後当室からの事務的な連絡に対応し、確実に連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。

#### 1-6. 内容に関する問合せ先

- ・候補者の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む）に対して適切かつ確実に応答ができ、必ず連絡のとれる者を記載すること（複数名記載可）。ただし、候補者本人は不可。

【様式若手2】候補調査書（主要業績）

共通事項

- ・ 2-1. 業績の概要、2-2. 候補案件とする研究テーマの内容、2-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案等（5件以内）の各項について、印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること。
- ・ 当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。

2-1. 業績の概要

- ・ 文章は全て箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること（図表等の使用は不可）。
- ・ (1)には、当該分野における本研究テーマの目的を含めて簡潔明瞭に記載すること。
- ・ (2)において、①には本候補者の研究の独創性が、明確かつ理解できるように記載し、②には本研究テーマにおける具体的研究手法・手段を含めて簡潔明瞭に記載すること。
- ・ (3)には、当該分野における研究動向（方向性・手段等）について、現状ならびに問題点を中心に記載すること。
- ・ (4)には、本候補者の着眼点の優秀性を、当該分野に対するインパクト等を含めて記載すること。
- ・ (5)には、今後、社会・経済または国民の福祉に対する寄与、貢献の可能性を記載すること。
- ・ 受賞候補者の成果と関係のない記述はしないこと。

2-2. 候補案件とする研究テーマの内容

- ・ カラー可とする（画像データを取り込み貼付することは可とするが、2-2. 候補案件とする研究テーマの内容全体で1枚にまとめることを考慮し、最小限の大きさにする）。
- ・ 参考図は簡単な図とする。特許公報等の図の転用は原則不可とする（やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと）。
- ・ 参考図には必ず概要説明を付すこと。

2-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案等（5件以内）

- ・ 本項において執筆者が多い等の場合は、常識の範囲内で適宜省略して記載しても構わない。
- ・ 候補案件とする研究テーマに関係する受賞候補者の推薦時点における主要な論文（発表済み（オンラインを含む）又は未発表の場合はアクセプト済みで、いずれも学協会等の査読付きの論文のみ）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、

- 発表年（西暦）、貢献度を記載するとともに、当該論文の概要について箇条書きで記載すること（本件成果と直接関係のない論文、発表未定の論文については記載しないこと）。
- ・候補案件とする研究テーマに関係する研究集会でのプロシーディングについて、論文と同じ記載内容の他、集会（会議）名、開催年（西暦）、査読の有無を追加記載すること（本件成果と直接関係のないもの、又は発表未定のものには記載しないこと）。
  - ・候補案件とする研究テーマに関係する主要な特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）の登録番号、タイトル、全発明者氏名、出願年（西暦）、登録年（西暦）、貢献度を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要について箇条書きで記載すること（出願中のものは記載しないこと）。
  - ・「候補者の貢献度」には、論文・特許・実用新案における全執筆者・発明者のうち候補者の貢献した割合を数値化したものを記載すること。
  - ・本項に記載した主要論文・特許・実用新案等は、全て右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑥添付資料（48 ページ）参照）

### 【様式若手 3】候補調査書付属資料（成果一覧）

#### 3-1. 論文等一覧

- ・候補案件とする研究テーマに関係する全ての論文（発表済み（オンラインを含む）又は未発表の場合はアクセプト済みで、いずれも学協会等の査読付きの論文のみ）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、発表年（西暦）、URL を記載すること（本件成果と直接関係のない論文、発表未定の論文については記載しないこと）。
- ・候補案件とする研究テーマに関係する研究集会でのプロシーディングについても記載すること。記載にあたっては、上記論文と同じ記載内容の他、集会（会議）名、開催年、査読の有無を追加記載すること（候補案件と直接関係のないもの、又は発表未定のものには記載しないこと）。
- ・「全執筆者氏名」について、氏名を論文と同じ順番で全て記載し、受賞候補者は発表当時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
- ・本項に記載した論文に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文名の直後にかっこ書きで記載すること。
- ・添付資料の論文で発表年の記載が無いものは、それが確認できる資料を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑥添付資料（48 ページ）参照）
- ・未発表の場合のアクセプト済み論文は、論文名の直後にかっこ書きで「（アクセプト済み）」と記載し、アクセプトされたことが証明できる資料を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑥添付資料（48 ページ）参照）
- ・【様式若手 2】「2-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案等」に記載した論文については、本項にも記載するとともに、通し番号の前に◎印を付すこ

と。

- ・ URL 欄には、オンライン上で閲覧可能なものは、その論文が閲覧できる URL を記載すること。オンライン上で閲覧不可能な論文は、URL 欄に「資料添付」と記載し、論文の写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。(⑥添付資料 (48 ページ) 参照)
- ・ 候補案件とする研究テーマを含む推薦時点における発表済み及び未発表だがアクセプト済みの総論文数(学協会等の査読付き論文)をページ最下部に参考として記載すること。

### 3-2. 特許・実用新案一覧

- ・ 候補案件とする研究テーマに関する受賞候補者の全ての特許・実用新案(登録されている特許・実用新案のみ)の登録番号、タイトル、出願年(西暦)、登録年(西暦)、全発明者氏名、URL を記載すること(本件成果と直接関係のない特許・実用新案、出願中のものは記載しないこと)。
  - ・ 「全発明者氏名」欄について、氏名を特許・登録公報(旧公告公報)と同じ順番で省略せずに全て記載し、受賞候補者は特許出願時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
  - ・ 本項に記載した特許・実用新案に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの直後にかっこ書きで記載すること。
  - ・ 【様式若手2】「2-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案等」に記載した特許・実用新案については、本項にも記載するとともに、通し番号の前に◎印を付すこと。
  - ・ URL は、特許公報が掲載されている J-Plat Pat<sup>※</sup>上で指定される URL を記載すること。
- ※J-Plat Pat とは、独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)が提供する知財情報の検索サービス。以下のページから公報を照会できます。
- [\(https://www.j-platpat.inpit.go.jp/\)](https://www.j-platpat.inpit.go.jp/)
- ・ J-Plat Pat 上の URL を記載できない場合(外国の特許等)は、URL 欄に「資料添付」と記載し、特許公報に類似した資料の写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。(⑥添付資料 (48 ページ) 参照)

### 3-3. 著書一覧

- ・ 候補案件の成果に関する受賞候補者の全ての著書について、全執筆者氏名、著書名、出版会社名、発行部数、発行年(西暦)を記載すること。(本件成果と直接関係のない著書については記載しないこと)。
- ・ 「全執筆者氏名」について、氏名を著書と同じ順番で省略せずに全て記載し、受賞候補者は発表当時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
- ・ 本資料に記載した著書に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場



合には、その旨を著書名の後に記載すること。

- ・本資料に記載した全ての著書については、表紙及びまえがきの写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。(⑥添付資料 (48 ページ) 参照)

### 3-4. 新聞等掲載状況一覧

- ・受賞候補者の成果を取り上げた全ての新聞記事・雑誌等について、掲載・発刊年(西暦)、掲載紙・雑誌名、ページ、タイトル、URL(web上の記事の場合)を記載すること(本件成果に直接関係ない新聞記事等については記載しないこと)。
- ・本資料に記載した新聞記事等のうち、受賞候補者の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすいものを5件まで選び(選択記事)、通し番号の前に◎印を付すこと。選択記事の写は、右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。(⑥添付資料 (48 ページ) 参照)

### 【様式若手4】履歴書

- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も可とする。
- ・本様式に記載する年月日については、西暦を使用すること。
- ・記載事項のない項目については、表を削除し、「該当なし」と記載すること。
- ・5. 賞罰に記載する表彰歴については、【若手様式1】1-4. 表彰歴で記載したものは記載を省略すること。

### 【様式若手5】推薦書(3名分)

- ・本推薦書は候補者の研究能力に対する客観的評価に関わるものである。
- ・本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者(例えば候補者の所属する研究チームのリーダー及びサブリーダー、もしくは当該研究チームの一員でも可)がそれぞれの視点から記載すること。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。なお、本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないこと。
- ・A4縦用紙1枚となるように作成し、推薦書の自筆署名が記載されたものをスキャンしてPDF形式にすること(署名欄以外の手書きは不可)。
- ・英語で記載する場合には別途和訳を添付すること。
- ・本推薦書の作成については、推薦機関が責任を持つこと。

(別表)

若手科学者賞 申請分野分類表

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)
数物	代数学、幾何学およびその関連分野	代数学 幾何学
	解析学、応用数学およびその関連分野	基礎解析学
		数理解析学
		数学基礎
	物性物理学およびその関連分野	応用数学・統計数学
		数物物理・物性基礎
		半導体・光物性・原子物理
		磁性・超伝導・強相関係
	プラズマ学およびその関連分野	生物物理・化学物理・ソフトマターの物理
		プラズマ科学
		核融合学
	素粒子、原子核、宇宙物理学およびその関連分野	プラズマ応用科学
		量子ビーム科学
		量子ビーム科学
天文学およびその関連分野	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理に関する理論	
	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理に関する実験	
地球惑星科学およびその関連分野	天文学	
	宇宙惑星科学	
	大気水圏科学	
	地球人間圏科学	
工学	材料力学、生産工学、設計工学およびその関連分野	固体地球科学
		地球生命科学
		材料力学・機械材料
	流体工学、熱工学およびその関連分野	加工学・生産工学
		設計工学
		機械要素・トライボロジー
	機械力学、ロボティクスおよびその関連分野	流体工学
		熱工学
		機械力学・メカトロニクス
		ロボティクス・知能機械システム
	電気電子工学およびその関連分野	電力工学
		通信工学
		計測工学
		制御・システム工学
電気電子材料工学		
土木工学およびその関連分野	電子デバイス・電子機器	
	土木材料・施工・建設マネジメント	
	構造工学・地震工学	
	地盤工学	
建築学およびその関連分野	水工学	
	土木計画学・交通工学	
	土木環境システム	
航空宇宙工学、船舶海洋工学およびその関連分野	建築構造・材料	
	建築環境・建築設備	
社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野	建築計画・都市計画	
	建築史・意匠	
材料工学およびその関連分野	デザイン学	
	航空宇宙工学	
化学工学およびその関連分野	船舶海洋工学	
	社会システム工学	
ナノマイクロ科学およびその関連分野	安全工学	
	防災工学	
応用物理物性およびその関連分野	金属材料物性	
	無機材料・物性	
応用物理工学およびその関連分野	複合材料・界面	
	構造材料・機能材料	
原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野	材料加工・組織制御	
	金属生産・資源生産	
人間医工学およびその関連分野	移動現象・単位操作	
	反応工学・プロセスシステム工学	
応用物理物性およびその関連分野	触媒プロセス・資源化学プロセス	
	バイオ機能応用・バイオプロセス工学	
応用物理物性およびその関連分野	ナノ構造化学	
	ナノ構造物理	
応用物理物性およびその関連分野	ナノ材料科学	
	ナノバイオサイエンス	
応用物理物性およびその関連分野	ナノマイクロシステム	
	応用物性	
応用物理工学およびその関連分野	薄膜・表面界面物性	
	応用物理一般	
原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野	結晶工学	
	光工学・光子科学	
人間医工学およびその関連分野	原子力工学	
	地球資源工学・エネルギー学	
人間医工学およびその関連分野	生体医工学	
	生体材料学	
人間医工学およびその関連分野	医用システム	
	医療技術評価学	
人間医工学およびその関連分野	医療福祉工学	

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)
化学	物理化学、機能物性化学およびその関連分野	基礎物理化学
		機能物性化学
		有機化学およびその関連分野
	無機・錯体化学、分析化学およびその関連分野	構造有機化学・物理有機化学
		有機合成化学
		無機・錯体化学
	高分子、有機材料およびその関連分野	分析化学
		グリーンサステナブルケミストリー・環境化学
		高分子化学
	無機材料化学、エネルギー関連化学およびその関連分野	高分子材料
有機機能材料		
無機材料化学、エネルギー関連化学およびその関連分野		
生体分子化学およびその関連分野	無機材料化学	
	生体関連化学	
	生物分子化学	
農学	農芸化学およびその関連分野	ケミカルバイオロジー
		植物栄養学・土壌学
		応用微生物学
		応用生物化学
		生物有機化学
	生産環境農学およびその関連分野	食品科学
		応用分子細胞生物学
		遺伝育種科学
		作物生産科学
		園芸科学
森林園科学、水圏応用科学およびその関連分野	植物保護科学	
	昆虫科学	
	生物資源保全学	
	ランドスケープ科学	
	森林科学	
社会経済農学、農業工学およびその関連分野	木質科学	
	水圏生産科学	
	水圏生命科学	
	食料農業経済	
	農業社会構造	
獣医学、畜産学およびその関連分野	地域環境工学・農村計画学	
	農業環境工学・農業情報工学	
	環境農学	
	動物生産科学	
	獣医学	
生物学	分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野	動物生命科学
		実験動物学
		分子生物学
		構造生物化学
		機能生物化学
	細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野	生物物理学
		ゲノム生物学
		システムゲノム科学
		細胞生物学
		発生生物学
個体レベルから集団レベルの生物学と人類学およびその関連分野	植物分子・生理科学	
	形態・構造	
	動物生理化学・生理学・行動学	
	遺伝学	
	進化生物学	
神経科学およびその関連分野	多様性生物学・分類学	
	生態学・環境学	
	自然人類学	
	応用人類学	
	神経科学一般	
薬学およびその関連分野	神経形態学	
	神経機能学	
	薬系化学・創薬科学	
	薬系分析・物理化学	
	薬系衛生・生物化学	
生体の構造と機能およびその関連分野	薬理学	
	環境・天然医薬資源学	
	医療薬学	
	解剖学	
	生理学	
病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野	薬理学	
	医化学	
	病態生物化学	
	人体病理学	
	実験病理学	
薬学およびその関連分野	寄生虫学	
	細菌学	
	ウイルス学	
	免疫学	

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)	
医学	腫瘍学およびその関連分野	腫瘍生物学 腫瘍診断・治療学	
	ブレインサイエンスおよびその関連分野	基盤脳科学 認知脳科学 病態神経科学	
	内科学一般およびその関連分野	内科学一般 神経内科学 精神神経科学 放射線科学 胎児医学・小児成育学	
	器官システム内科学およびその関連分野	消化器内科学 循環器内科学 呼吸器内科学 腎臓内科学 皮膚科学	
	生体情報内科学およびその関連分野	血液・腫瘍内科学 膠原病・アレルギー内科学 感染症内科学 代謝・内分泌学	
	恒常性維持器官の外科学およびその関連分野	外科学一般・小児外科学 消化器外科学 心臓血管外科学 呼吸器外科学 麻酔科学 救急医学	
	生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野	脳神経外科学 整形外科科学 泌尿器科学 産婦人科学 耳鼻咽喉科学 眼科学 形成外科学	
	口腔科学およびその関連分野	常態系口腔科学 病態系口腔科学 保存治療系歯学 口腔再生医学・歯科医用工学 補綴系歯学 外科系歯学 成長・発育系歯学 社会系歯学	
	社会医学・看護学およびその関連分野	医療管理学・医療系社会学 衛生学・公衆衛生学・実験系を含む 衛生学・公衆衛生学・実験系を含まない 法医学 基礎看護学 臨床看護学 生涯発達看護学 高齢者看護学・地域看護学	
	スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野	リハビリテーション科学 スポーツ科学 体育・身体教育学 栄養学・健康科学	
	人間工学およびその関連分野	生体工学 生体材料学 医用システム 医療技術評価学 医療福祉工学	
	情報学	情報科学、情報工学およびその関連分野	情報学基礎論 数理情報学 統計科学 計算機システム ソフトウェア 情報ネットワーク
		人間情報学およびその関連分野	情報セキュリティ データベース 高性能計算 計算科学 知覚情報処理 ヒューマンインタフェース・インタラクション 知能情報学 ソフトコンピューティング 知能ロボティクス 感性情報学 デザイン学 認知科学
		応用情報学およびその関連分野	生命・健康・医療情報学 ウェブ情報学・サービス情報学 学習支援システム エンタテインメント・ゲーム情報学 図書館情報学・人文社会情報学
		環境学	環境動態解析 放射線影響 化学物質影響 環境影響評価

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)	
環境学	環境保全対策およびその関連分野	環境負荷・リスク評価管理 環境負荷低減技術・保全修復技術 環境材料・リサイクル技術 自然共生システム 循環型社会システム 環境政策・環境配慮型社会	
		哲学および倫理学 中国哲学、印度哲学および仏教学 宗教学 思想史 美学および芸術論 美術史 芸術実践論 科学社会学および科学技術史 デザイン学関連	
	思想、芸術およびその関連分野	日本文学 中国文学 英文学及び英語圏文学 ヨーロッパ文学 文学一般 言語学 日本語学 英語学 日本語教育 外国語教育 図書館情報学および人文社会情報学	
		歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野	史学一般 日本史 アジア史およびアフリカ史 ヨーロッパ史およびアメリカ史関連 考古学関連 文化財科学 博物館学
	文学、言語学およびその関連分野	地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野	地理学 人文地理学 文化人類学および民俗学 地域研究 観光学 ジェンダー
		法学およびその関連分野	基礎法学 公法学 国際法学 社会法学 刑事法学 民事法学 新領域法学
	政治学およびその関連分野	政治学	政治学 国際関係論 地域研究 ジェンダー
		経済学、経営学およびその関連分野	理論経済学 経済学説および経済思想 経済統計 経済政策 公共経済および労働経済 金融およびファイナンス 経済史 経営学 商学 会計学 観光学
	社会学およびその関連分野	社会学	社会学 社会福祉学 家政学および生活科学 観光学 ジェンダー
		教育学およびその関連分野	教育学 教育社会学 子ども学及び保育学 教科教育学および初等中等教育学 高等教育学 特別支援教育 教育工学 科学教育 日本語教育 外国語教育 社会心理学 教育心理学 臨床心理学 実験心理学 認知科学
心理学およびその関連分野	心理学	心理学	

※若手科学者賞候補調査書【様式若手1】中、「1-1. 業績名」の欄において、候補案件とするテーマがどのような研究分野に属するかについて、上記表に従い、大区分、中区分、小区分まで記載すること。

#### (4) 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞

##### 表彰対象

1. 創意工夫功労者賞は、鉱工、農林、水産、運輸、通信、建設、保健衛生、電力ガス等の業務に従事する勤労者のうち、工場等における職長以下の工員、農林水産業従事者、医療補助者、研究所における研究補助員、技能職員及びこれと同程度の者であって、優れた創意工夫によって各職域における技術の改善向上に貢献した者を表彰する。
2. 創意工夫功労者賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。  
優れた創意工夫によって職域における科学技術の進歩又は改良に寄与した個人又はグループ

1. 企業や公設研究所等における管理者や主任研究員等に対しては、国家的表彰、あるいは民間科学技術振興団体の表彰が種々行われているが、工員、研究補助員等に対する表彰は、一般に企業等の内部表彰として行われているにすぎない。

しかし、優れた科学技術はトップレベルの技術関係者のみによって達成されるものではなく、各々の分野において、実際に工場等の現場で創意工夫に努力している関係者の幅広い基盤があってこそ、高水準の技術が生まれ育っていくものと考えられる。本表彰制度は、こうした観点から企業体等において、職場で実際に創意工夫を行い、科学技術振興の基盤づくりに貢献している者を対象として昭和35年から行っているものである。

##### 2. 表彰対象について

- \* 1 創意工夫の内容については、候補者の職域における創意工夫（発明・考案に限らず、広く技術などの改良・改善を含む）によって、例えば飛躍的な作業能率の向上、製品の品質の向上、コストの大幅な削減、未利用資源の活用、作物の増収、品種改良、傷害防止、公害、災害の防止など職域での技術等の改善向上に貢献した社内表彰等の受賞歴を有するなど実績顕著なものとする。従って、単なる永年勤続者、精勤者等は対象とはならない。
- \* 2 年齢制限については設けない。ただし、表彰年度の4月1日現在で同一会社に継続して5年以上勤務していることを要する。
- \* 3 候補者の学歴については、原則として高等学校卒業以下を対象とする。ただし、短大、高等専門学校及び文化系の大学卒業者も対象とする。なお、就業中に夜間の大学（理工系）を卒業した者についても対象とする。
- \* 4 候補者は人格に著しい欠陥のない者であること。
- \* 5 異なった業績による場合であっても、5年以内における同一人の重複した表彰は行わない（本年度は、平成29年度以降の当該表彰受賞者は対象とならない）。
- \* 6 1業績3名以内（個人）とする。
- \* 7 候補者の職場における地位上の制限については、工場などにおける職長以下（部下に対して管理権を持たない〔管理職手当を支給されていない〕者であれば、課長名の職でも可）の工員、農業従事者、医療補助者、研究所における技能職員、及びこれと同程度の者までとする。

##### (\*7に関する補足説明)

- ・ 鉱工、農林、水産、運輸、通信、建設などに関する工場、事業場（農場、牧場などを含む）に勤務する勤労者の場合は、職長、班長、工員、作業員、運搬員、配達員などであって職長以下の地位にある者。
- ・ 保健、衛生の業務に従事する勤労者の場合は、例えば病院、診療所、医療研究機関などにおける看護師、助産師、保健師、衛生検査技師、歯科衛生士、歯科技工士、栄養士、診療エックス線技師、研究用実験動物の飼育などに従事する医療補助者を対象とする。

- ・各種研究所、試験場、学校等における勤労者にあつては、例えば、研究用機器の運転、手入れ、研究用資料の整備、調整、制作、研究用機器の作成、研究成果の製表、圃場の整理、研究用動植物の育成等の業務に従事する技能職員を対象とする。
- ・中小企業において職制が明瞭でない場合には、経営者以外であれば一応該当者とする。
- ・小規模企業（従業員20名以下）、家族労働者を含む程度の個人企業例えば農業従事者、大工、左官などの事業の場合は経営者自身も対象としてよい。

### 3. 推薦機関における候補者の選考にあたっての注意事項

各推薦機関における候補者の選考にあたっては、それぞれ以下の点に留意すること。

#### ・中央省庁

候補者は、各省庁所属の団体（研究所、学校、試験場、病院、工場、事業場、特殊法人、元公社（NTT、JR、JT）、独立行政法人等（ただし大学を除く））の職員であること。

#### ・都道府県

候補者は、各都道府県内に所在する工場、事業場、病院、研究所、学校等に勤務する勤労者であること。（候補者の現住所と工場等の所在する都道府県が異なる場合には、その工場等の所在する都道府県において推薦すること。）

ただし、中央省庁所属の団体（研究所、学校、試験場、病院、工場、事業場、特殊法人、元公社（NTT、JR、JT）、独立行政法人等（ただし大学を除く））に属する者については、これらを主管する省庁から推薦されるので選考の対象から除外すること。

#### ・退職等

候補者は、表彰年度の4月1日現在において、推薦時点での表彰対象となる職場における地位上の制限を満たす企業等の職員である必要があるため、退職予定の者や地位の変更等が見込まれる者は推薦しないこと。

#### ・候補者数の上限

候補者の数は、同一事業所等から10名以内とすること。（事業所とは、労働基準法における事業場に準ずる。）

### 4. その他

- ・候補者調査書に含まれる個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき管理し、本表彰審査のために利用します。
- ・受賞者の氏名・年齢、所属、業績名等は公表されますので予め承知願います。

## ○推薦に必要な書類等

以下の書類を、以下の注意事項に従って作成し、次項の提出方法に従って提出すること。

#### ① 【様式創工1】候補調査書

申請書類記載要領（80ページ）をよく読み作成すること。補足資料（申請書類記載要領17参照）がある場合には、【様式創工1】の後に添付する。

#### ② 【様式創工2】候補者一覧表

・Excelで作成し、ファイル名は「【推薦機関名】創意工夫候補者一覧表」とすること。

#### ③ 戸籍抄本

- ・戸籍抄本は原則令和3年4月1日以降に発行されたものを提出すること。
- ・個人番号（マイナンバー）の記載のない住民票でも可。

## ○文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞の申請書類提出要領

文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書等の各種書類を、以下の要領に従い提出すること。

なお、審査過程で必要に応じて追加提出を求められることがあり得る。

### 《メール》

提出専用アドレス (kagihyosyo@mext.go.jp) に電子データで以下のことに注意してメールを送付すること。

- (1) 件名は「【提出（推薦機関名）】創意工夫功労者賞申請書類」とする。
- (2) 連絡先として、メール本文に「【推薦機関名・推薦事務担当者の所属、氏名・電話番号・メールアドレス】」を記入する。
- (3) 前項の申請書類①は、業績ごとに一つの PDF ファイルにまとめる。そのファイル名は「【推薦機関名】候補者氏名申請書類」とする。（一つの業績に複数の候補者がいる場合は、筆頭者の氏名の後に「他〇名」と記載する。）
- (4) 電子データ提出書類は、「(3) 業績ごとにまとめた PDF ファイル」、「②候補者一覧表(Excel)」の 2 種類である。
- (5) 送付するメール 1 通あたりの容量は 10MB 以内とする。

### 《郵送》

【〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2 文部科学省 研究振興局振興企画課奨励室】宛てに以下の書類を郵送すること。（全て同じ封筒とすること）

- (1) 申請書類チェックリスト（推薦依頼の別添として送付したもの。推薦機関で 1 部）
- (2) ②候補者一覧表（通信障害等で書類が届かない等の問題が起こりうるため電子データだけでなく書類でも必ず提出すること）
- (3) 戸籍抄本  
※B5サイズの戸籍抄本や住民票の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。  
※候補が複数名の場合、戸籍抄本または住民票は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ留めとすること。

科学技術分野の文部科学大臣表彰 推薦様式提出方法一覧表（創意工夫功労者賞）

（参考）

必要様式	創意工夫功労者賞				提出窓口	問い合わせ窓口
	ファイル名	ファイル形式	フォルダ名	紙		
①様式創工1 「候補調査書」 補足資料	【推薦機関名】（候補者氏名）申請書類	PDF			(電子媒体) kagihyosyo@mext.go.jp	TEL : 03-6734-4071
②様式創工2 「候補者一覧表」	【推薦機関名】 創意工夫候補者一覧表	Excel		1		
「戸籍抄本」または「住民票」 申請書類チェックリスト（推薦機関毎に1部）				1		

## 令和4年度創意工夫功労者賞 候補調査書

(推薦機関記入欄) 推薦順位		推薦都道府県名、推薦省庁名 ( )
-------------------	--	----------------------

## 1. 業績名

--

## 2. 候補者について

候補者氏名・年齢・性別	ふ り が な (〇〇歳) (男) ※表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載
生年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日生 ※以下西暦で記載
候補者の現住所	〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
最終学歴	〇〇〇〇年 都・道・府・県立 学校 科卒業
候補者の人格	

## 3. 候補者の勤務先について

候補者勤務先名称			
現在の勤務上の地位	〇〇職長 (〇〇相当)		
入社(勤務)年月	〇〇〇〇年 〇〇月 (計 〇〇年〇〇月) ※表彰年度の4月1日現在の勤務年数を記載		
勤務先の概要	名称		当工場事業所等の従業員数 人
	所在地		全従業員数 人
	事業概要		資本金 円

## 4. 社内表彰等及び本賞の受賞歴

受賞年	表彰名	表彰主体	受賞者
〇〇〇〇年	優良社長賞 「〇〇〇〇の考案」	(株)〇〇	本人
〇〇〇〇年	〇〇賞 「〇〇〇〇の考案」	(財)〇〇法人	本人 企業



5. 創意工夫の内容について

①創意工夫の内容【(1)背景（作業等の全体のイメージを含む）・着眼点、(2)科学的・技術的な要素を含む考案点、改良点を具体的に、分かりやすく記載すること。】

②創意工夫の実績【職場の能率の向上、製品の増大、コストの引き下げ、未利用資源の活用、資材の節約、災害防止等に役立った実績を極力数値化して記載すること。】

# 創意工夫功労者賞 申請書類記載要領

申請書類は、様式を文部科学省ホームページよりダウンロードし、作成にあたっては、本記載要領をよく確認すること。

## 【様式創工1】創意工夫功労者賞候補調査書

1. 本資料に不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件については、審査の対象から除外する。
2. A4縦用紙（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（手書き不可。）
3. 同一の業績に対し複数（3名以内）の候補者がある場合、様式1枚目（4. 社内表彰等及び本賞の受賞歴まで）は全ての候補者について作成し、2枚目（5. 創意工夫の内容について）は複数の候補者の共通資料として1部のみ作成すること。
4. 「推薦順位」欄については、各省庁、都道府県の担当部署で記入すること。
5. 「業績名」欄に記載する業績名については、文部科学大臣表彰に相応しい表現かつ当該創意工夫の内容を的確に表すものとする。また、語尾は「考案」、「改良」、「改善」の3種から選択することとし、文字数は語尾を含めて合計 23 文字以内 とすること。なお、原則として業績名には商標、商品名、愛称、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・、。）を使用しないこと。また、字間は空けないこと。
6. 候補者氏名には、ふりがな（ひらがな）を付すこと。候補者氏名は、戸籍に記載されている旧姓も使用可とする。
7. 候補者の年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。
8. 「最終学歴」欄について、学校名称が制度改正等で変わった場合は、現在名をカッコ書きで付記すること。（例： 京都府立一中（洛北高校）のように記載。）
9. 「候補者の人格」欄については、候補者の人格信用状況等を簡潔に記載すること。
10. 「候補者勤務先名称」欄について、株式会社は（株）と記載すること。（例：〇〇（株）〇〇工場）
11. 「現在の勤務上の地位」欄については、例えば『〇〇〇工場（株）製造課〇〇職長』のように具体的に記載すること。なお、候補者の勤務上の地位が一般的な職名でない場合には、カッコ書きで「～相当」として一般的な職名（係長、職長、班長、係員等）で示すこと。
12. 「入社（勤務）年月」欄について、カッコ書きで表彰年度の4月現在までの通算勤務年数を記載すること。
13. 「事業内容」欄については、候補者の勤務する工場、事業場等の事業内容を具体的に、かつ簡単に記載すること。
14. 「社内表彰等及び本賞の受賞歴」欄については、本件業績に関わるものについて、現在までに知事あるいは直轄上司、その他から表彰された経歴があるとき、その主なものについて受賞年、表彰名称等を記載すること。
15. 「創意工夫の内容」欄については、(1)背景（作業等の全体のイメージを含む）・着眼点、(2)科学的・技術的な要素を含む考案点、改良点を具体的に、分かりやすく、かつ1ページに納まるように記載すること。
16. 「創意工夫の実績」欄については、当該創意工夫によって、その職場の能率の向上、製品の増大、コストの引き下げ、未利用資源の活用、資材の節約、災害防止等に役立った実績を極力数値化して記載すること。
17. 補足資料を添付する場合（様式任意）は、3ページ以内とすること。



## (5) 文部科学大臣表彰研究支援賞

### 表彰対象

1. 研究支援賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。  
科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて、高度で専門的な技術的貢献を通じて研究開発の推進に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ

- \* 1 「高度で専門的な技術的貢献」とは
  - ・ 研究施設・設備・機器の運用、管理、利用支援並びに実験データの測定・処理・分析及び研究試料の加工等に係る新たな技術の開発またはその実施
- \* 2 「研究開発の推進に寄与する活動」とは
  - ・ 研究者と共同で課題解決を図る活動や研究開発の推進をサポートする活動
  - ・ 高度で専門的な技術・知見の継承や技術の向上を図るための人材育成活動（講習会やセミナー等）

### ○表彰対象について

- ・ 研究を支援するための技術開発又は、活動を行った者のみならず、所属機関における組織的な制度改善や体制構築等の取組が、活動の実施に当たって重要な貢献をした場合において、こうした取組を行った者を含む。
- ・ 研究支援ではなく、研究開発そのもの（例えば、研究開発やその実用化に向けた活動、研究者として行う研究開発活動）については、対象としない。

### ○個人情報の取り扱いについて

- ・ 候補調査書及び候補調査書付属資料に含まれる個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき管理し、本表彰審査のために利用する。  
(受賞者の氏名・年齢・顔写真、所属・役職、業績名、業績概要、推薦機関名等は公表されますので予め御承知願います。)

## ○推薦に必要な書類

以下の様式を、以下の注意事項に従って作成し、次項の提出方法に従って提出すること。

- ① 【様式支援1】候補調査書  
申請書類記載要領（101～106 ページ）をよく読み作成すること。
- ② 【様式支援2】候補調査書（主要業績）  
申請書類記載要領（101～106 ページ）をよく読み作成すること。
- ③ 【様式支援3】候補調査書付属資料（成果一覧）  
申請書類記載要領（101～106 ページ）をよく読み作成すること。
- ④ 【様式支援4】履歴書  
申請書類記載要領（101～106 ページ）をよく読み作成すること。
- ⑤ 添付資料
  - ・【様式支援3】に記載した論文等及び登録特許・実用新案のうち、オンラインで閲覧可能な URL を載せることができないものに限って、論文等及び登録特許・実用新案の写の PDF を別添すること。論文の発表年の記載が無いもの又は未発表だがアクセプト済みのものは、それが確認できる資料も添付すること。
  - ・【様式支援1】1-3～1-5に記載した「会社概要」、「表彰歴」、「活動内容」に関する資料、【様式支援3】3-3、3-5に記載した「技術文書」、「新聞等」に関する資料も添付資料として作成すること。
  - ・これらのファイル名は「【推薦機関名】候補者氏名添付資料」とし、「会社概要」、「表彰歴」、「活動内容」、「論文の発表年証明」、「アクセプト証明」、「論文」、「特許・実用新案」、「技術文書」、「新聞等」の順にし、全て A4 用紙となるように PDF 化した上で、1つのファイルにまとめること。
- ⑥ 【様式支援5】候補者一覧表
  - ・Excel で作成し、ファイル名は「【推薦機関名】支援候補者一覧表」とすること。
- ⑦ 【様式支援6】業績概要一覧表
  - ・Excel で作成し、ファイル名は「【推薦機関名】筆頭候補者氏名\_支援業績概要一覧表」とすること。
  - ※業績概要一覧表は、1つの業績につき1ファイル作成してください。
- ⑧ 戸籍抄本
  - ・戸籍抄本は原則令和3年4月1日以降に発行されたものを提出すること。
  - ・ただし、外国籍の場合は、戸籍抄本に代えて、個人番号（マイナンバー）のない住民票を提出すること。

## ○文部科学大臣表彰研究支援賞の申請書類提出要領

文部科学大臣表彰研究支援賞への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書、候補調査書付属資料、特許・論文の写し等の各種書類を、以下の要領に従い提出すること。

なお、審査過程で必要に応じて追加提出を求めることがあり得る。

### ≪メール≫

提出専用アドレス (kagihyosyo@mext.go.jp) に電子データで以下のことに注意してメールを送付すること。

- (1) 件名は「【提出（推薦機関名）】研究支援賞申請書類」とする。
- (2) 連絡先として、メール本文に「【推薦機関名・推薦事務担当者の所属、氏名・電話番号・メールアドレス】」を記入する。
- (3) 前項の申請書類①～④は、候補者ごとに一つの PDF ファイルにまとめる。そのファイル名は「【推薦機関名】候補者氏名申請書類」とする。
- (4) 候補者ごとにフォルダを作成し、フォルダ名を「【推薦機関名】候補者氏名」とすること。①～④をまとめた「【推薦機関名】候補者氏名申請書類」と、⑤「【推薦機関名】候補者氏名添付資料」の2種類の PDF ファイルをこのフォルダの中に入れること。
- (5) 電子データ提出書類は、「(4) 候補者ごとにまとめたフォルダ」、「⑥候補者一覧表(Excel)」、「⑦業績概要一覧表(Excel)」の3種類である。
- (6) 送付するメール1通あたりの容量は10MB以内とする。

### ≪郵送≫

【〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省 研究振興局振興企画課奨励室】宛てに以下の書類を郵送すること。(全て同じ封筒とすること)

- (1) 申請書類チェックリスト(推薦依頼の別添として送付したもの。推薦機関で1部)
- (2) ⑥候補者一覧表(通信障害等で書類が届かない等の問題が起こりうるため電子データだけでなく書類でも必ず提出すること)
- (3) 戸籍抄本

※B5サイズの戸籍抄本(外国籍の受賞候補者は住民票)の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。

※候補が複数名の場合、戸籍抄本(外国籍の受賞候補者は住民票)は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ留めとすること。

科学技術分野の文部科学大臣表彰 推薦様式提出方法一覧表（研究支援賞）

(参考)

必要様式	研究支援賞				提出窓口	問い合わせ窓口
	ファイル名	ファイル形式	フォルダ名	紙		
①様式支援 1	「候補調査書」				<b>(電子媒体)</b> kagihyosyo@mext.go.jp  <b>(紙媒体)</b> 〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省研究振興局振興企画課奨励室	TEL : 03-6734-4071  E-mail : sinsyore@mext.go.jp
②様式支援 2	「主要業績」					
③様式支援 3	「成果一覧」	PDF	【推薦機関名】 (候補者氏名) 申請書類			
④様式支援 4	「履歴書」					
⑤添付資料	「会社概要」		【推薦機関名】 (候補者氏名) 添付資料		1	
	「表彰歴」					
	「活動内容」					
	「論文の発表年証明」	PDF				
	「アクセプト証明」					
	「論文」					
⑥様式支援 5	「候補者一覧表」	Excel				
⑦様式支援 6	「業績概要一覧表」	Excel				
	「戸籍抄本」(外国籍の場合住民票)					1
	申請書類チェックリスト (推薦機関毎に1部)					1

## 令和4年度 研究支援賞 候補調査書

推薦機関名	
-------	--

## 1-1. 業績名

--

## 1-2. 受賞候補者

ふりがな	
氏名 (筆頭者)	
年齢 (2022年4月1日時点)	
性別	
所属・役職	
ふりがな	
氏名	
年齢 (2022年4月1日時点)	
性別	
所属・役職	
ふりがな	
氏名	
年齢 (2022年4月1日時点)	
性別	
所属・役職	

## 1-3. 会社概要 (※候補者が民間企業所属の場合のみ記入)

候補者氏名	会社名称	資本金 (百万円)	従業員数 (人)	年間売上げ (百万円)	主要製品名 (売上げ比率)



## 1-4. 表彰歴【候補案件の成果に関する受賞歴】

1	表彰年（西暦）	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	表彰業績名	
	主催団体名	
2	表彰年（西暦）	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	表彰業績名	
	主催団体名	

## 1-5. 候補案件の成果に関する実績（過去5か年度）

年度	高度で専門的な技術的貢献を通じた研究開発の推進に寄与する活動の 具体的内容
直近5か 年度以前 の活動状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇年～〇〇年、××に関する測定技術を開発し、その技術を活用した実験データの測定を年間△△件実施。</li> <li>・〇〇年～〇〇年、××の測定や分析に関する講習会の講師となり、△△人の技術力向上に寄与。</li> <li>・〇〇年、研究に活用する××の管理や運用を行う技術職員の技術向上や情報交換を行うための協議会を立ち上げ。</li> </ul>
2016年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
2017年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
2018年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
2019年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

2020年 度	. . .
------------	-------------

## 1-6. 推薦機関

推薦機関名		
代表者職名・氏 名		
所在地等		
事務担当者	氏名	
	所属・役職	
	TEL・FAX	
	E-mail	

## 1-7. 内容に関する問合せ先

氏名	
所属・役職	
TEL・FAX	
E-mail	

## 研究支援賞 候補調査書（主要業績）

### 2-1. 業績の概要

(1) 当該分野における背景

・  
・  
・

(2) 候補案件の成果の内容（人材育成活動等を含む。）

・  
・  
・

(3) 候補案件を受けて行われた研究開発の内容

・  
・  
・

(4) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

・  
・  
・

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるように簡潔にまとめること

## 2-2. 候補案件の成果の内容（人材育成活動等を含む）、候補案件の成果による社会的効果・実施効果

本調査書2-1(2) 候補案件の成果の内容（人材育成活動等を含む）、(4) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図表等を用いて理解し易く説明すること。

注) 印刷時にA4縦用紙2枚以内となるように簡潔にまとめること

### 2-3. 候補案件を受けて行われた研究開発の内容

本調査書2-1(3)候補案件を受けて行われた研究開発の内容について、フロー図表等を用いて理解し易く説明すること。

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるように簡潔にまとめること

## 研究支援賞 候補調査書付属資料（成果一覧）

### 3-1. 特許・実用新案一覧

1. 特許第〇〇〇〇〇〇号 「〇〇の製造方法」

〇〇〇〇年出願、〇〇〇〇年登録

全発明者氏名：〇〇〇〇（〇〇大学技術職員）

URL：<https://www.j-platpat>. . . .

2. 特許第〇〇〇〇〇〇号 「〇〇〇の成型方法」（〇〇学会〇〇賞受賞）

〇〇〇〇年出願、〇〇〇〇年登録

全発明者氏名：〇〇〇〇（〇〇大学主任技術専門員）、△△△△、□□□□

URL：資料添付

### 3-2. 研究論文・著書一覧

1. 〇〇〇〇 (〇〇大学主任技術専門員)、△△△△「〇〇〇〇の研究」(〇〇学会  
〇〇賞受賞)、〇〇学会誌 vol. 〇 p〇~〇、〇〇〇〇年発表、  
URL : . . .
2. □□□□、◇◇◇◇、〇〇〇〇 (〇〇大学技術職員)「〇〇〇〇の効果的利用」、  
〇〇〇〇誌 (〇〇部発行)、〇〇〇〇年発行
3. 〇〇〇〇 (〇〇大学技術職員)、□□□□、◇◇◇◇  
「〇〇〇〇の開発について」(アクセプト済み)、〇〇〇〇誌、(〇〇〇〇年発表予定)  
URL : 資料添付

### 3-3. 技術文書一覧

1. △△△△ (〇〇大学技術職員)、「〇〇〇〇」〇〇〇〇年

URL : . . .

2. □□□□、△△△△ (〇〇大学技術職員)、「〇〇〇〇」〇〇〇〇年

URL : 資料添付



**3-4. 講演一覧**

1. ○○○○年、○○○○セミナー（○○○○主催）、「○○○○の○○について」  
講演者：○○○○（○○大学主任技術専門員）
  
2. ○○○○年、○○○○セミナー（○○○○主催）、「○○○○の○○について」  
講演者：○○○○（○○大学技術職員）

## 3-5. 新聞等掲載状況一覧

◎1	掲載・発刊年(西暦)	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	
2	掲載・発刊年(西暦)	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	
3	掲載・発刊年(西暦)	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	
◎4	掲載・発刊年(西暦)	
	掲載紙・雑誌名	
	ページ	
	タイトル	
	URL	

## 研究支援賞 履歴書

ふりがな	もんか はなこ
氏名	文科 花子
生年月日 (西暦)	
年齢 (2022年4月1日時点)	
性別	
所属・役職	〇〇大学主任技術専門員
現住所	〒123-456 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1

## 1. 学歴

卒業／修了年月日 (西暦)	大学名・専攻等
	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 卒業
	〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻 修士課程修了

## 2. 職歴

自 至	年月日 (西暦)	勤務先名称等	役職等
		〇〇大学	技術職員
	現在	〇〇大学	主任技術 専門員

## 3. 公職歴

自 至	年月日 (西暦)	勤務先名称等	役職等
		〇〇会議	委員
	現在	〇〇会議	委員

## 4. 民間団体歴

自	年月日 (西暦)	勤務先名称等	役職等
至	年月日 (西暦)		
	-----	〇〇学会	運営委員
	現在	〇〇学会	運営委員

## 5. 賞罰

1	表彰年 (西暦)	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	主催団体名	
2	表彰年 (西暦)	
	受賞者氏名	
	表彰名称	
	主催団体名	

※【様式支援1】1-4. で記載した表彰歴は省略している。

研究支援賞 候補者一覧表

番号	賞区分	候補者氏名	生年月日	年齢	性別	所属・役職	業績名	推薦歴/受賞歴	推薦機関名	推薦機関担当者					
										郵便番号	住所	所属役職名	担当者名	連絡先 (TEL)	連絡先 (mail)
1	支援														
2	支援														
3	支援														
4	支援														
5	支援														
6	支援														
7	支援														
8	支援														
9	支援														
10	支援														

(記載上の注意)

- ・セルの結合、サイズの変更は行わないこと。また、同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、全ての内容を候補者毎に記載すること。
- ・候補者が多数いる場合には、行を追加して記載すること、その際A列の番号も入力すること。
- ・**※既存の行を、行ごとコピー・挿入すること (0～S列の欄数を反映させるため)**
- ・「氏名 (旧姓も使用可)」「所属・役職」「業績名」は、候補調査書と同じ記載とすること (当該様式においては、氏名に外字を含む場合は環境に依存しない文字に置き換えること)。
- ・「生年月日」は、半角で「(西暦) O O O O / O O / O O」と記入すること。(例) 2000/1/1
- ・「業績名」が、申請書類記載要領の記載ルールを満たしていない場合、セルが赤くなるので、修正すること。
- ・※修正すべき箇所は、0～S列「修正事由」を参照してください (Xの場合、要件を満たしていないため、修正すること)。
- ・「推薦歴/受賞歴」には、過去に当表彰の推薦・受賞がある候補者について、その年度と賞区分を記載すること。(例：令和3年度表彰の研究支援賞に推薦された場合は、R03支援推薦 と記載。)
- ・「推薦機関名」には、国立大学法人○○大学、公益社団法人○○協会 等と法人名を省略せず記載すること。
- ・「推薦機関担当者」には、今後当室からの事務的な連絡や書類の確認依頼に対応する者を記載すること。

研究支援賞 業績概要一覧表

【様式支援6】

番号	氏名 (筆頭者)	年齢	性別	所属・役職	過去の 推薦歴 ・受賞歴	住所	業績 が 業 績	業績のポイント	推薦機関
	〇〇 〇〇〇	47	女	〇〇大学 技術職員	無	東京都	〇〇への けん 献	(1)候補案件の成果の内容 (2)候補案件の成果による社会的効果・実施効果 <b>※印刷した際に枠内に文字が収まっていることを確認して下さい。</b> <b>※(1)(2)の各項目は削除しないでください。</b>	国立大学法人 〇〇大学
	〇〇 〇〇	53	男	(独)〇〇研究機構 技術職員	無	広島県			
	〇〇 〇〇	42	男	〇〇(株) 〇〇研究所 技術職員	H31開発 受賞	山形県			

【記入上の注意】

- ①1つの業績につき、1ファイル作成してください。
  - ②「番号」欄の記載は不要です。
  - ③各欄の記載は、候補調査書の記載内容に合わせて作成下さい。「業績のポイント」欄には、候補調査書【様式支援2】「2-1. 業績の概要」に記載した内容を簡潔に記載してください。  
本文中には候補者の実名は出さず、「候補者は～に貢献した」のような記述スタイルで統一してください。
  - ④C列の「年齢」欄は、K列の「生年月日」欄を入力すると令和4年4月1日時点で自動入力されます。  
※「生年月日」は、半角で「(西暦)〇〇〇〇/〇〇/〇〇」と記入すること。(例)2000/1/1
  - ⑤「推薦機関」欄には、〇〇省、〇〇県、国(公)立大学法人〇〇大学、〇〇大学、〇〇法人〇〇学会 等と法人名を省略せずに記載してください。
  - ⑥「業績名」欄が、申請書類記載要領の記載ルールを満たしていない場合、セルが赤くなりますので、修正してください。  
※修正すべき箇所は、L列「判定」欄、M列「修正事由」欄を参照してください(L列が×の場合、要件を満たしていません)。
- ※当方にて指定した「書式設定」(セルの幅、高さ、フォントサイズ等)は絶対に変えないでください。

## 研究支援賞 申請書類記載要領

申請書類は、様式を文部科学省ホームページよりダウンロードし、作成にあたっては、本記載要領をよく確認すること。

### 【全様式 共通事項】

- ・日本語で記入すること（論文名等は除く）。
- ・様式の記載欄は加工せず、全てA4縦用紙で作成すること。ただし、以下の項目については、必要に応じて行を追加することも可とする。

【様式支援1】 1-2. 受賞候補者、1-3. 会社概要、1-4. 表彰歴、1-5. 候補案件の成果に関する実績、1-7. 内容に関する問い合わせ先

【様式支援3】 全項目

【様式支援4】 全項目

- ・書式設定（余白等）を変えないこと。
- ・文字はフォントサイズを10.5ポイントに設定すること（手書き不可）。
- ・URLには、該当ページのハイパーリンクを付すこと。
- ・各様式に記載できる内容は、提出締切日前に論文・特許等で成果が公に発表されている、又は発表が決まっており、その業績を客観的に確認できるものとする。
- ・全ての申請書類について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。

### 【様式支援1】 候補調査書

#### 1-1. 業績名

- ・候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・語尾は「貢献」とすること。
- ・語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ） 「 」 ・ 、 ）を使用しないこと。また、字間は空けないこと。

#### 1-2. 受賞候補者

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、5名以内とする。
- ・候補者は、全員が本件業績について、研究開発の成果創出に向けた技術的貢献等が客観的に確認できる者であること。

- ・氏名欄には、公表を希望する文字を記載すること。
- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も使用可とする。
- ・氏名には、必ずふりがなを付すこと。氏名・ふりがなはそれぞれ姓名の間を一字分空けること。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・所属について、独立行政法人は（独）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、株式会社は（株）、国立研究開発法人（国研）とし、役職は正確に記載すること（【様式支援4】履歴書への記載と一致させること）。

#### 1-3. 会社概要

- ・民間企業所属の候補者の場合のみ、当該項目は記載すること。
- ・候補調査書作成時点における内容を記載する。
- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、全ての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・株式会社は（株）と記載すること。
- ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）を右肩に本項に記載した順に番号を付記し、PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）

#### 1-4. 表彰歴【候補案件の成果に関する受賞歴】

- ・候補案件の成果に関する受賞について、全て記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年（西暦）、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、全ての受賞者氏名を記載順通りに記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載した全ての受賞について、記載した内容が客観的に確認できる資料（表彰状の写、表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）を、右肩に本項に記載した順の通し番号を付記し、PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）

#### 1-5. 候補案件の成果に関する実績（過去5か年度）

- ・「直近5か年度以前の活動状況」欄は、過去5か年度以前の活動状況について簡潔にまとめて記載すること。
- ・「年度」欄には直近5か年度における各年度の高度で専門的な技術的貢献を通じた研究開発の推進に寄与する活動の具体的内容について簡潔にまとめて記載すること。
- ・活動内容のわかる資料（新聞記事、パンフレット等）があれば写を右肩に本項に記載した順に番号を付記し、PDF ファイルにまとめること（⑤添付資料（83 ページ）参照）。



#### 1-6. 推薦機関

- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長から推薦依頼を受けた機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・事務担当者は、今後当室からの事務的な連絡に対応し、確実に連絡のとれる者を記載すること。(複数名記載可) なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関にあるものとする。

#### 1-7. 内容に関する問合せ先

- ・候補者の業績について、文部科学省からの質問等(技術的内容を含む)に対して適切かつ確実に応答ができ、必ず連絡のとれる者を記載すること(複数名記載可)。ただし、候補者本人は不可。

### 【様式支援2】候補調査書 (主要業績)

#### 共通事項

- ・当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・様式支援3に関連する資料等がある場合、該当する文章の後にかっこ書きで支援様式3の番号を付記すること。

例：様式3-2. 研究論文・著書一覧の1番目が関連する場合

- ・研究開発の速度が飛躍的に向上し～、民間企業との大型共同研究が締結されている。(3-2-1)

#### 2-1. 業績の概要

※文章は全て箇条書きとし、印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔明瞭に記載すること(図表等の使用は不可)。

- ・当該分野において何が課題((1)当該分野における背景))としてあり、それに対してどの様に克服((2)候補案件の成果の内容))し、その結果どの様な優れた成果((3)候補案件を受けて行われた研究開発の内容、(4)候補案件の成果による社会的効果・実施効果)があったのかのストーリーを意識して作成すること。

例：〇〇の課題を克服した。 ⇒ 〇〇の課題に対して△△することにより□□を実現した。

- ・(1)には、当該分野における従来の状況を含め、何が課題としてあったのか、本件業績の背景を簡潔に記載すること。
- ・(2)には、本件活動の内容が具体的に理解できるように記載すること。研究支援を行うにあたり、特に、従来の課題や技術の問題点に対して、どのような改善を図ったのか

についても記載すること。また、所属機関における組織的な制度改善や体制構築等の取組、次代の人材育成などの貢献を図った場合、どのような貢献を図ったのか記載すること。

- ・(3)には、(2)において記載した支援がどのように他者が実施する研究開発の成果につながったのかについて記載すること。
- ・(4)には、(2)において記載した活動や貢献が及ぼした効果等を記載すること。

## 2-2. 候補案件の成果の内容、候補案件の成果による社会的効果・実施効果

※印刷時にA4縦用紙2枚以内となるよう簡潔に

- ・2-1(2)及び(4)で記載した内容を詳しく説明すること。
- ・候補者が複数の場合は、誰がどの功績に貢献したのかが分かるように記載すること。
- ・カラー可とする。
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可とする(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと)。
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

## 2-3. 候補案件を受けて行われた研究開発の内容

※印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔に

- ・2-1(3)で記載した内容を詳しく説明すること。
- ・カラー可とする
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可とする(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明を全て付すこと)。
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

## 【様式支援3】候補調査書付属資料(成果一覧)

### 共通事項

- ・該当のない一覧については、該当なしと記載し一覧を削除しないこと。なお、記載例については、削除すること。
- ・様式支援2で記載された内容の根拠となる情報(特許・実用新案、研究論文・著書、技術文書等)を記載すること。

## 3-1. 特許・実用新案一覧

- ・候補案件の成果に関係する主要な特許・実用新案(登録されている特許・実用新案のみ)の登録番号、タイトル、出願年(西暦)、登録年(西暦)、全発明者氏名、URLを記載すること(本件成果と直接関係のない特許・実用新案、出願中のものは記載しないこと)。

- ・「全発明者氏名」欄について、氏名を特許・登録公報（旧公告公報）と同じ順番で省略せずに全て記載し、受賞候補者は特許出願時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
  - ・本項に記載した特許・実用新案に関連する発明について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの直後にかっこ書きで記載すること。
  - ・URL は、特許公報が掲載されている J-Plat Pat<sup>※</sup>上で指定される URL を記載すること。
- ※J-Plat Pat とは、独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）が提供する知財情報の検索サービス。以下のページから公報を照会できます。

[\(https://www.j-platpat.inpit.go.jp/\)](https://www.j-platpat.inpit.go.jp/)

- ・J-Plat Pat 上の URL を記載できない場合（外国の特許等）は、URL 欄に「資料添付」と記載し、特許公報に類似した資料の写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）

### 3-2. 研究論文・著書一覧

- ・候補案件の成果に関係する主要な論文（発表済み（オンラインを含む）又は未発表の場合はアクセプト済みで、いずれも学協会等の査読付きの論文のみ）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、発表年（西暦）、URL を記載すること（本件成果と直接関係のない論文、発表未定の論文については記載しないこと）。
- ・候補案件の成果に関係する受賞候補者の主要な著書について、全執筆者氏名、著書名、出版会社名、発行部数、発行年（西暦）を記載すること。（本件成果と直接関係のない著書については記載しないこと。）
- ・「全執筆者氏名」について、氏名を論文と同じ順番で全て記載し、受賞候補者は発表当時の役職を記載のうえ、下線を付すこと。
- ・本資料に記載した論文・著書に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文・著書名の後に記載すること。
- ・添付資料の論文で発表年の記載が無いものは、それが確認できる資料を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）
- ・未発表の場合のアクセプト済み論文は、論文名の直後にかっこ書きで「（アクセプト済み）」と記載し、アクセプトされたことが証明できる資料を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）
- ・オンラインで閲覧可能な論文は、その論文を閲覧することができる URL を記載すること。オンライン上で閲覧不可能な論文は、URL 欄に「資料添付」と記載し、論文の写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）
- ・本資料に記載した全ての著書については、表紙及びまえがきの写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。（⑤添付資料（83 ページ）参照）

照))

### 3-3. 技術文書一覧

- ・候補案件の成果に係る受賞候補者の主要な技術文書(技術報告書、設計・製作記録、取扱説明書、関連 Web サイト等のほか、組織として技術の蓄積をするための技術伝承や開発された機器の保守・改良等にとって重要な記録等)について、作成者氏名、タイトル、作成年(西暦)を記載すること。(本件成果と直接関係のない技術文書については記載しないこと。)
- ・本件候補者氏名には、作成当時の役職を記載し、下線を付すこと。
- ・オンライン上で閲覧可能な技術文書は、URL を記載すること。オンライン上で閲覧不可能な技術文書は、URL 欄に「資料添付」と記載し、文書の写を右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。(⑤添付資料(83 ページ)参照)

### 3-4. 講演一覧

- ・候補案件の成果に係る受賞候補者の主要な講演について、講演年(西暦)、セミナー等名称(主催団体名)、演題、講演者名を記載すること。(本件成果と直接関係のない講演については記載しないこと。)
- ・本件候補者氏名には、講演当時の役職を記載し、下線を付すこと。

### 3-5. 新聞等掲載状況一覧

- ・候補案件の成果を取り上げた主要な新聞記事・雑誌等について、掲載・発刊年(西暦)、掲載紙・雑誌名、ページ、タイトル、URL(web 上の記事の場合)を記載すること(本件成果に直接関係ない新聞記事等については記載しないこと)。
- ・閲覧することができる新聞等掲載情報は、URL を記載すること。
- ・本資料に記載した新聞記事等のうち、受賞候補者の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすいものを5件まで選び(選択記事)、通し番号の前に◎印を付すこと。選択記事の写は、右肩に本項に記載した順の通し番号を付記して PDF ファイルにまとめること。(⑤添付資料(83 ページ)参照)

### 【様式支援4】履歴書

- ・氏名は、戸籍に記載されている旧姓も可とする。
- ・本様式に記載する年月日については、西暦を使用すること。
- ・記載事項のない項目については、表を削除し、「該当なし」と記載すること。
- ・5. 賞罰に記載する表彰歴については、【様式支援1】1-4. 表彰歴で記載したものは記載を省略すること。

### 3. 科学技術分野の文部科学大臣表彰の事務の流れ

科学技術分野の文部科学大臣表彰各賞の受賞者を、例年4月初旬に発表し、科学技術賞、若手科学者賞及び研究支援賞は、科学技術週間（発明の日（4月18日）を含む1週間）中に表彰する予定である。また、創意工夫功労者賞は、同じく科学技術週間中に推薦機関（各省庁、都道府県）において表彰を行う予定である。

その関連事務スケジュールは以下のとおりである。

- ①文部科学大臣表彰各賞の推薦依頼（表彰年度の前年（以下「前年」と略す。）の5月頃）
- ②書類審査（前年の8月～12月頃）
- ③科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会における審査・選考（1月～2月頃）
- ④受賞者の決定（3月）・表彰式（4月）

